

令和2年2月7日（金）現在

新学習指導要領の下での学習評価について  
＜別添資料＞

期日：令和2年2月7日（金） 15:00～16:45

会場：群馬県総合教育センター講堂

群馬県教育委員会義務教育課



# 【中学校国語】

## 単元の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①【 】ている。</p> <p>※単元に位置付けた<b>指導事項の文言</b>を基本とする。【 】内は指導事項の文言。 ※指導事項の一部を用いる場合もある。</p> <p>※単元の時間数や生徒の実態から身に付けさせたい事項を、それぞれ1~2事項選ぶ。(①、②とする) ※選んだ指導事項の中から、特に身に付けさせたい事項を選ぶ。(→主体態の《 B 》に入る)</p> <p>【知技①】</p> <p>【知技②】</p>	<p>①(領域名:〇〇こと)において、【 】ている。</p> <p>【思判表①】</p> <p>【思判表②】</p> <p>※太線については、特に身に付けさせたい指導事項 ※それぞれの②については、評価規準として設けないこともある。</p>	<p>〇 進んで、《 A 》 【 】し、《 B 》 学習の見直しをもって、《 C 》 【 】している。《 D 》</p> <p>A:粘り強さ→「積極的に」、「進んで」、「粘り強く」等 B:知識・技能、思考・判断・表現において、<b>特に粘り強さを発揮してほしい指導事項</b> C:自らの学習の調整→「見直しをもって」、「学習課題に沿って」、「今までの学習を生かして」等 D:当該単元の具体的な<b>言語活動</b></p> <p>【主体態】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>粘り強さ</li> <li>自らの学習の調整</li> </ul>

### はばたく群馬の指導プランⅡ 単元のつくり方

#### 過程と基本的な学習活動

#### 1 単元の課題を把握する。

◇教材文やモデル文等と出会い、単元の学習に興味や関心をもつ。

**【単元の課題】**  
〈必要感のある言語活動〉

◇既習事項や実生活の体験等を想起しながらゴールの姿に向かうための大体の流れをつかむ。

#### 2 単元の課題の解決に向け、単位時間ごとに追究する。

##### 単位時間

##### 【めあてをつかむ】

- ◇各単位時間のめあてに対して、個で考える。
- ◇ペアや少人数での交流活動を行い、互いの考えを伝え合う。
- ◇学級全体で、各グループの交流活動で出された意見や考えについて確認し合い、新たな気付きをもつ。

##### 【まとめ・振り返りをする】

単位時間

単位時間

単位時間

#### 3 単元の学習を振り返る。

◇単元の課題について、学ぶ前と後との変容を自覚するとともに、今までの学習のポイントを学級全体で共有する。

◇学んだことを、他の学習や日常生活でどのように活用できるかを考える(一般化)。

**単元全体の振り返り**

〈例〉評価の位置付け  
※指導事項が、【知技①】、【思判表①・②】で、特に身に付けさせたい指導事項が【思判表①】の場合

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
<p>「つかむ過程」では、【単元の課題】に対しての生徒の実態をつかむ。(【知技】【思判表】については既習事項の定着状況を確認することもある。)</p>		
※1 【知技①】	【思判表①】	【主体態】 見通し
<b>単位時間</b>		
<p>※各単位時間で重点を置く評価の観点、指導者の授業の「ねらい」によって変わります。 ※学習状況を見取る時間は指導計画によります。</p>		
【知技①】	【思判表①】	【主体態】 学習状況の確認 問題の追究
<b>単位時間</b>		
	※3 【思判表②】 <sup>記</sup>	
※2 【知技①】 <sup>記</sup>	【思判表①】 <sup>記</sup>	【主体態】 <sup>記</sup> 学習状況の確認 単元での学び
<p>※1で、学びの前の生徒の力を見取り、各単位時間で指導・支援を行い、※2で、記録に残す評価をする。「追究する過程」で行うこともある。(【知技】【思判表】同様)</p>		

★はばプランⅡで示す「問題解決的な学習」の単元構想でないと、評価規準に示す学習状況の評価がしにくくなります。**必要感のある言語活動の設定**が主体的・対話的で深い学びの授業の鍵を握ります。

#### 「指導に生かす評価」(学習状況を見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、生徒の学習状況を見取り、必要に応じて、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

#### 「評定に用いる評価」(評価したことを記録に残す)

= 記

- ・目標の実現状況が生徒の反応から顕著に見られる場面を精選します。
- ・国語科の知識・技能、思考・判断・表現は、継続的に指導を積み重ねた結果としての学習状況との捉え、学習過程の後半での記録が多くなることが考えられます。
- ・※3のように、既習事項の定着の確認など、「まとめる過程」でない場面でも記録に残す場合もあります。

指導計画 国語科 第3学年  
 単元名 東京オリンピックへの思いが分かりやすく伝わる投書文を書こう (全6時間計画)

どのような資質・能力を育成するために、どのような言語活動を行うのが生徒に分かるようにする。

単元の目標	(1) 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。 [知識及び技能] (2)ア (2)－① 文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1)イ (2)－② 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(2)ウ (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」
-------	---

- ・指導事項の文言を基本にする。文末は「～できる」。(3)の「学びに向かう力、人間性等」、学年の目標の(3)。
- ・(1)(2)については、時間や指導内容にもよるが、あわせて2～3点が適当。

本単元における言語活動：テーマについて自分の考えを投書文に書く。(関連：[思考力、判断力、表現力等] B(2)ア)

単元の目標を実現するために適した言語活動（指導事項を指導するための言語活動）

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。 (2)ア 現行の「言語についての知識・理解・技能」 ・文末は「～している」 学習指導要領の指導事項との関連を明確にする	① 「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。 (B(1)イ) ② 「読むこと」において、表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) 現行の「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」 ・冒頭は「(領域名)において、」 ・文末は「～している」	① <u>粘り強く(A)自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫し(B)、見通しをもって(C)、投書文を書こうとしている(D)。</u> ※A～Dの内容を含めて一文で表す A：粘り強さ (積極的に、進んで、粘り強く等) B：2観点(知識・技能、思考・判断・表現)において、特に粘り強さを発揮してほしい内容 C：自らの学習の調整 (見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等) D：当該単元の具体的な言語活動
※単元に位置付けた指導事項の文言を基本とする ※指導事項の一部を用いる場合もある		

過程	時間	○ねらい めあて	☆振り返り(意識)	評価項目・評価方法	記録
つかむ	1	○学習の見通しをもたせることで、投書文を書くことへの関心を高め、学習課題への意欲をもてるようにする。(※東京オリンピック招致のWeb文章等を提示する。)	☆オリンピックを開催するにはたくさんの人たちの思いが集結していること、選手の活躍の裏にはたくさんのドラマがあることが分かった。初めて投書文を書くけれど、音目々の学習を思い	[主体的に学習に取り組む態度] ① ノート・発言 ・見通しをもって言語活動に取り組もうとしているかを確認する。	
		東京オリンピックへの思いが分かりやすく伝わる投書文を書こう	【評価したことを指導に生かす】 ※自らの学習の調整として、見通しをもって言語活動に取り組むという規準を設定したため、児童の様子を最初に見取る重点が置かれる場面と考えている。(記録には残さないため、点線囲みで示した。)		
		東京オリンピックに関する様々読み、オリンピックに込められ思いについて考えよう。			

中学校・国語

※本時は、B(1)アに基づいて学習状況を捉え指導を行うが、単元の目標としていないので、本単元の評価には含めない。

	<p>1 ○切り抜きした複数の記事から周囲に伝えたい記事を、適切な観点を基に分析しながら二つ選択し、その記事の概要と選択した理由をわかりやすく伝えることができるようにする。</p>	<p>☆最初は写真や見出しが目立つ記事に目が行ったけれど、投書文を書くという目的を考えると、記事の内容に共感したり、驚いたりしたものを選択した方がいいと思った。選択する観点は目的によって変わるものだと分かった。</p>	
<p>追究する</p>	<p>1 ○二つの記事の共通点や相違点を見つけ、「情報シート」にまとめながら、適切な部分を引用したり、記事に関連づけることができるようにする。</p>	<p>☆二つの記事に共通する言葉や内容をつなげることで、</p>	<p>[知識・技能] ① ノート ・二つの記事の概要を関連付け、具体的な言葉でまとめているかを確認する。</p>
	<p>1 ○「情報カード」にまとめた内容を踏まえながら、自分との関わりを結び付け、説得力のある文章を書くことができるようにする。</p>	<p>☆自分の関わり方を記事の内容と結びつけることは難しかったけれど、記事の内容を自分なりに整理し、自分の文章に盛り込むように工夫した。</p>	<p>[思考・判断・表現] ② ワークシート ・記事の内容を引用して、自分の考えを伝える文章にしようとしているかを確認する。</p>
	<p>1 ○今までの学習を思い出して、構成や論理の展開を工夫して、投書する文章を推敲することができるようにする。</p>	<p>☆投書文は読み手が特定できないので、より説得力のある文章を書くことが大切だと思った。今までの学んだことを思い出して推敲した。友人から引用する記事の順番を逆にしたらと言われ、何度か読み直して、変えることにした。変えたら、前の文章よりもよく伝わる文章になった。</p>	<p>[思考・判断・表現] ① ワークシート ・振り返りカード ・今までの学習を生かして、多様な読み手を説得できるように構成や論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫しているかを確認する。</p> <p>継続的な指導</p>
<p>まとめる</p>	<p>1 ○互いの投書文を読み合い、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になる工夫について、自分の文章の良い点や今後自分の表現に生かせるポイントをまとめることができるようにする。</p>	<p>☆○○さんから、「引用した2つの記事と伝えたいことがよくつながっていて説得力がある」と言われてうれしかった。記事の言葉や内容について、観点をもって共通点を探すとよいと思った。</p>	<p>[思考・判断・表現] ② ワークシート ・記事の内容を引用して、自分の考えを伝える文章にしようとしているかを確認する。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度] ① 振り返りカード ・自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるような工夫を重ね、見通しをもって、投書文を書こうとしていたかを確認する。</p>

※「はばたく群馬の指導プランⅡ」に基づく授業を参考にして作成





指導計画 社会科 地理的分野 単元名「世界の諸地域 ヨーロッパ州」(全7時間計画)

単元の目標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ州のEU統合による人々の生活の変化や課題は、それが見られる地域的特色の影響を受けていることを理解させる。</li> <li>・ヨーロッパ州に暮らす人々の生活を基に、その地域的特色を大観し理解させる。</li> <li>・ヨーロッパ州のEU統合による影響を、地域における共通性や多様性、地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現させる。</li> <li>・ヨーロッパ州について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。</li> </ul>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ州のEU統合による人々の生活の変化と課題は、それが見られる地域的特色の影響を受けていることを理解している。</li> <li>・ヨーロッパ州に暮らす人々の生活を基に、その地域的特色を大観し理解している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ州のEU統合による影響を、地域における共通性や多様性、地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul>

中学校社会科における「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を基に作成していく

○：評定に用いる評価

●：指導に生かす評価

過程	時間	○ねらい めあて	☆振り返り(意識)	評価の観点			◇評価項目 <方法・観点>
				知	思	態	
つかむ	1	<p>○2度の大戦におけるヨーロッパ諸国の歴史や、EUの広がり分かる資料を基に、疑問や調べたいことを考え、単元の課題を立てる活動を通して、ヨーロッパ州の自然環境や人々の生活・文化について、追究する意欲をもてるようにする。</p> <p>ヨーロッパ州に関する写真や資料を基に、疑問や調べたいことを話し合い、単元の課題をたてよう。</p>	<p>☆昔は、ヨーロッパの国同士で大きな戦争をしていたが、今は、結びつきを強めているんだな。EU統合で結びつきが強まったことにより、どのような変化が起きたのだろうか。</p>				<p>◇ヨーロッパの歴史や統合の流れ、欧州の変化などについて、疑問や調べたいことを考え、表現している。 &lt;ノート・発言&gt;</p> <p>◇ヨーロッパ州のEU統合による影響について、解決の見通しをもっている。 &lt;ノート・発言&gt;</p>
<p><b>【指導に生かす評価】</b></p>							
追究する	1	<p>○ヨーロッパ州の地図や雨温図を基に、域内の違いを話し合う活動を通して、ヨーロッパ州の地形や気候の特色について理解する。</p> <p>ユーラシア大陸の西部に位置するヨーロッパ州では、自然環境にどのような特色があるのだろうか。</p>	<p>☆アルプスの北側は平原が広がり水運に適した河川が流れ、南側では火山などもあり地震が多いのだな。日本より高緯度の割には海流と偏西風の影響で気候は比較的温暖だけど、同じヨーロッパでも北極圏に位置する場所もあるなど自然環境で大きな違いがあるのだな。</p>				<p>◇ヨーロッパ州の地形や気候の特色について理解している。 &lt;ワークシート・発言&gt;</p>
	1	<p>○主なキリスト教の宗派や使用されている言語、移民の存在について調べ、その特徴を話し合う活動を通して、ヨーロッパ文化の共通性や多様性について理解する。</p> <p>多くの国々が集まるヨーロッパの文化には、どのような共通性や多様性があるのだろうか。</p>	<p>☆民族に違いがあっても、キリスト教をもとにした文化や、言語では文法や発音など共通した特徴があるんだな。また、歴史の中で、多様な民族が移民し、異なる信仰や文化をもつ人々も暮らすようになったのだな。</p>				<p>◇ヨーロッパ州の文化の共通性や多様性など、基本的な特色を理解している。 &lt;ノート・発言&gt;</p>

中学校・社会

	<p>1 ○EU加盟国の国民生活について調べ、統合前後の違いを話し合う活動を通して、EUによる統合が域内の産業や経済の発展、人々の生活に変化をもたらしたことを理解する。</p> <p>ヨーロッパでは国境を越えた結びつきが強まることにより、人々の生活の様子にどのような変化がみられたのだ</p>	<p>☆ヨーロッパは、人・物・金が自由に往来できるようになったことで世界有数の経済地域になっているのだな。さらに生活を便利にするために、他にどのような努力や話し合いが行われているのかな。調べてみたいな。</p>	<p>●</p>	<p>活か便利で豊かになるとともに、世界においてヨーロッパの影響力が高まったことを理解している。 〈ノート・発言〉</p>
	<p>1 ○ヨーロッパの農業について調べ、その特色を話し合う活動を通して、ヨーロッパでは各地域の自然環境に合わせた農業が発展してきたことや、現在、抱えている課題について理解する。</p> <p>ヨーロッパの農業にはどのような地域的特色と課題があるのだろうか。</p>	<p>【指導に生かす評価】 (学習状況を見取る)</p> <p>全ての単位時間において、「ねらい」に即し、生徒の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図る。</p> <p>の、域内の長科目単元を上げようとしているが、補助金増加が財政を圧迫してしまうという課題もあり、見直しが必要なのだな。</p>		<p>◇ヨーロッパ州の農業における地域的特色や、EU統合による変化と課題について理解している。 〈ノート・発言〉</p> <p>◇農業におけるヨーロッパ州のEU統合による影響を考え、表現している。 〈ノート・発言〉</p>
	<p>1 ○ヨーロッパの工業について調べ、その特色を話し合う活動を通して、西ヨーロッパを中心として工業が発達していることや、EU統合による産業の変化と課題について理解する。</p> <p>ヨーロッパの工業にはどのような特色があり、EU統合によってどのような変化や課題が生じてきたのだろうか。</p>	<p>☆西欧を中心に重工業が発展したが、最近は先端技術産業も成長しているのだな。その一つであるエアバス社は、各国が共同で設立して国際分業している代表的なものだ。でも、EU内の経済格差が大きく、東からの移民の流入が西側の失業率を上げているのは課題だ。</p>	<p>●</p>	<p>◇ヨーロッパ州の工業における地域的特色や、EU統合による変化を理解している。 〈ノート・発言〉</p>
<p>まとめ</p>	<p>1 ○学習してきたこと基に単元の課題についてまとめるとともに、現在のEUが抱えている問題を知り、これからの地域統合の在り方について考える。</p> <p>学習してきたことを基に単元の課題についてまとめるとともに、現在のEUが抱えている問題について考えよう。</p>	<p>☆統合により、人々の生活は便利になり地域としての国際的な地位は向上したのだな。でも、域内の経済格差や移民流入による失業率上昇などの問題も多く、イギリスの脱退の話題からも統合の在り方を見直すことも必要になってくるな。</p>	<p>○</p>	<p>◇単元の課題についてまとめるとともに、EU統合による利点と課題点から、今後のよりよい地域統合の在り方について、自分の考えを表現している。 〈ノート・記述〉</p> <p>◇単元の課題に沿って、ヨーロッパ州の地域的特色を大観するとともに、EU統合による人々の生活の変化と課題は、地域的特色の影響を受けていることを理解している。 〈ノート・記述〉</p> <p>◇ヨーロッパ州のよりよい地域統合の在り方について、主体的に考えようとしている。 ノート・記述</p>

【評定に用いる評価】  
(評価したことを記録に残す)

- ・評価する時期や場面の精選
- ・単元を見通して、目標の実現状況が生徒の反応から顕著に見られる場面
- ・知識・技能と思考・判断・表現は継続的に指導を重ねた結果としての学習状況としての捉え

※「はばたく群馬の指導プランⅡ」に基づく授業を参考にして作成



# 【中学校数学】

## 単元の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①単元の学習内容に合わせ、知識についての内容を「~している」</p> <p>②単元の学習内容に合わせ、技能についての内容を「~できる」</p> <p>【知技①】 単元で学ぶ学習内容を理解しているかを示す。</p> <p>【知技②】 単元で学ぶ学習内容や方法が身に付いているかを示す。</p>	<p>○知識・技能を身に付ける学習の中で表れる学習状況の様子を「~できる」</p> <p>【思判表】 「○○している」という状態を見取るとともに「○○ができる」かどうかを評価する。 ※考えたことを「説明できる」等の状況を見取る。</p>	<p>○単元の学習内容に合わせて、粘り強く考えようとしていたり、数学のよさに気付いている様子を「~している」</p> <p>【態度①】 学習内容の必要性や意味を考えている。</p> <p>【態度②】 身の回りの事象と単元で学ぶ学習内容をつなげて考えている。</p> <p>【態度③】 単元の学習内容の定着を振り返ったり見直したりして、粘り強く考えようとしている。</p>
<p>※評価規準については、単元の学習内容に応じて、「内容のまとまりごとの評価規準」に加え、[用語・記号]や[内容の取扱い]に記載されていることをどのように見取るかを設定するとともに、解説の記述も参考に設定することが必要です。</p>		

### はばたく群馬の指導プランⅡ 単元のつくり方

#### 過程と基本的な学習活動

**1 新たな学習内容にふれ、単元の課題を立てる。**

- ◇日常生活や社会の事象、数学の事象から算数・数学の問題にであうとともに、既習の知識及び技能、経験を基に解決する。
- ◇新たな学習内容と関連する既習の知識及び技能との共通点や相違点を見だし、もっと知りたいことや考えてみたいことなどを話し合う。

【単元の課題】  
〈単元の学習で追究していく問い〉

であう

**2 単位時間の基本的な学習過程を通して「本時の問い」を解決する。**

単位時間の基本的な流れ

- ①学習を把握し、めあてを設定する。
- ②めあてを追究する。
  - (1)個別に追究し、考えを全体で共有する。
  - (2)考えを深める。
- ③学習をまとめる。 **知識及び技能の習得**
- ④学習の振り返りとして、適用問題に取り組む。

本時の問い

単位時間の基本的な流れ

- ①学習を把握し、めあてを設定する。
- ...
- ③学習をまとめる。 **知識及び技能の習得**
- ④学習の振り返りとして、適用問題に取り組む。

追究する

**3 単元で学んだことを活用する。**

- ◇習得してきた知識及び技能を活用し、総合的な問題を解決する。
- ◇解決方法やその根拠、よさなどを数学的な表現を用いて説明し合う。
- ◇単元全体の学習を振り返り、日常生活と数学とのつながりを考える。

単元全体の振り返り

つかう

### 〈例〉評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
<p>活動的に取り組んでいるなど興味・関心は評価に含まない。</p>		<p>【態度①】 既習の学習内容の想起状況の確認</p>
<p><b>単位時間</b> 各単位時間で重点を置く評価の観点、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。</p>		
<p>【知技①②】 小テスト(適用問題等)で理解の状況を確認</p>	<p>【思判表】 単元の学習内容に応じた説明など</p>	<p>【態度①】 学習状況、問題の追究の確認</p>
<p><b>単位時間</b></p>		
	<p>【思判表】 <b>記</b> 単元の学習内容に応じた説明など</p>	
<p>【知技①②】 <b>記</b> 小テスト(適用問題等)で理解の状況を確認</p>	<p><b>単位時間</b></p> <p>【態度①③】 <b>記</b> 学習状況の確認(「学びの足跡シート」を活用) <small>※「学びの足跡シート」は小単元や単元の学習後に記入</small></p>	
<p><b>単位時間</b></p>		
	<p>【思判表】 <b>記</b> ノート分析</p>	
<p>【知技①②】 <b>記</b> ペーパーテスト</p>	<p>【思判表】 <b>記</b> ペーパーテスト</p>	<p>【態度②】 <b>記</b> 日常生活とのつながりの考察(「学びの足跡シート」を活用) <small>※「学びの足跡シート」は小単元や単元の学習後に記入</small></p>

評価規準に示される学習状況を評価するためには、はばプランⅡに示される「問題解決的な学習」の単元を構想することが不可欠です。

【指導に生かす評価】  
(学習状況を見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、生徒の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の充実」

【評定に用いる評価】  
(評価したことを記録に残す) = **記**

目標の実現状況が生徒の反応から顕著に見られる場面を精選し、学習内容が定着しているかどうかを確認し、指導に生かすようにします。

- ・数学科の知識・技能についてはペーパーテストとして定着を見取ることができます。思考・判断・表現をペーパーテストで見取る場合は、考え方について筋道立てて説明させるなど、出題の仕方を工夫する必要があります。
- ・主体的に学習に取り組む態度については、学習を小単元ごとに振り返る機会を設定し、生徒自身に有用性を実感させる必要があります。

指導計画 数学科 第2学年 単元名「3章 一次関数」(全18時間計画)

単元の目標
(1) 一次関数についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
(2) 関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。
(3) 一次関数について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①一次関数について理解している。 ②事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知っている。 ③二元一次方程式を関数を表す式とみることができる。 ④変化の割合はグラフの傾きの意味を理解している。 ⑤一次関数の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。	①一次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 ②一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	①一次関数の意味を考えようとしている。 ②一次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③一次関数を活用した問題過程を振り返って評価・改善しようとしている。

【単元の評価規準について】

評価規準については、単元の学習内容に応じて、「内容のまとめりごとの評価規準」に加え、【用語・記号】や【内容の取扱い】に記載されていることをどのように見取るかを設定するとともに、解説の記述も参考に設定することが必要です。

※重点：重点的に生徒の学習状況を見取る観点

知識・技能…「知」、思考・判断・表現…「思」、主体的に学習に取り組む態度…「態」と表記

※記録：総括の資料とするための評価として、全員の学習状況を記録に残すもの。「○」と付している箇所。

過程	時間	◎ねらい・めあて	○学習活動	重点	記録	備考
であう	1	◎段のある水槽に水をためるときに、伴って変わる二つの数量に着目して変化の様子を捉え、数量関係を既習事項と比較・検討する活動を通して、一次関数について考えていくという見通しをもつことができるようにする。  時間と高さがどのように変化していくのかを表してみよう。	○中に段のある水槽に一定の割合で水をためていくときに、伴って変わる二つの数量の変化に着目し、グラフを用いて変化の様子を表し、比例でも反比例でもない関数があることを理解する。	知  態	○	知①：行動観察  態①③：「学びの足跡シート」 ※生徒の疑問等を既習事項との比較等から記載する。
【主体的に学習に取り組む態度の留意点】 活動的に取り組んでいるなど興味・関心は評価に含まない。						
【単元の課題】比例でも反比例でもない関数（一次関数）にはどんな特徴があるのだろうか？						
追究する	2	◎一次関数について考える活動を通して、表を用いて関係を調べ、 $y=ax+b$ という式になることを理解できるようにする。  一次関数の表し方を考えよう。	○水槽に最初から水が入っている状態での時間と水の高さの関係に着目し、表を作成することで、 $y=ax+b$ という式になることを理解する。	知		知②：小テスト（適用問題と同じ） ※結果を今後の指導に生かす。
	3	◎一次関数と比例の変化の様子を表にし比較することを通して、一次関数の表の特徴（変化の割合）を考察できるようにする。  比例と一次関数の表の違いを見付けよう。	○水が入っていない状態と入っている状態の水槽の様子を表を作成し、比例と一次関数の表を比較し、一次関数の表の特徴と変化の割合の意味を考察する。	知		知④：小テスト（適用問題と同じ） ※結果を今後の指導に生かす。
学習指導の初期においては、努力を要すると判断される状況になりそうな生徒を見だし、おおむね満足できる状況となるよう適切な指導を行い、指導と評価の一体化を図ります。						

中学校・数学

6	<p>◎比例と一次関数のグラフを比較することを通して、一次関数のグラフは比例のグラフを平行移動させたものと考えられることや傾きと切片を利用したグラフのかき方、グラフ上に表れる変域について理解できるようにする。</p> <p>グラフの特徴を調べよう。</p>	<p>○比例と一次関数のグラフを一つの座標平面にかくことで、比例のグラフを平行移動したものだと理解する。グラフの中に表れる変化の割合を見付ける。変域のあるグラフのかき方についても理解する。</p>	思 知	○	<p>思①：行動観察</p> <p>知④⑤：小テスト ※第3時からの知識・技能の深まりを評価する。</p>	
11	<p>◎様々な二元一次方程式のグラフをかくことを通して、より簡単なかき方を見付けることができるようにする。</p> <p>二元一次方程式のグラフのかき方を工夫しよう。</p>	<p>○<math>y = \square</math>の形にするだけでなく、具体的な数値を代入することで、グラフが通る2点を求める方法を知り、グラフがかけることを理解する。</p>	知		<p>知⑤：ノート観察</p>	
12	<p>◎これまで学習したことがどの程度身に付いているかを自己評価できるようにする。</p>	<p>○一次関数の特徴に関する練習問題に取り組む。</p> <p>○「追究する」過程の学習を振り返って、「学びの足跡シート」に分かったことや疑問点を記述する。</p>	知 態	○ ○	<p>知①～⑤：小テスト</p> <p>態③：「学びの足跡シート」</p>	
つかう	13	<p>◎身近にある事象の中から二つ数量の関係を考えることを通して、一次関数とみなして、問題を解決することができるようにする。</p> <p>どれくらい冷たいままにいるのかをいろいろな方法で考えよう。</p>	<p>○保冷バッグに入れた飲み物の温度と入れていた時間の関係を表、式、グラフにすることで一次関数とみなし、自分なりに筋道を立てて説明する。</p>	思		<p>思②：行動観察</p>
	14	<p>◎一次関数のグラフを利用することを通して、身の回りの問題を解決することができるようにする。</p> <p>写真を撮るタイミングが何回あるか説明しよう。</p>	<p>○カーフェリーと高速船ジェットフォイルの運航の状況をグラフに表現することで、交点ですれ違うことを理解し、問題を解決する。</p>	思	○	<p>思②：ノート ※ノートを回収し、記載内容を記録する。</p>
17	18	<p>◎板と箱のある水槽に水をためていくときに、時間と水の高さの関係を考える活動を通して、一次関数についての理解を深めることができるようにする。</p> <p>時間と水の高さの関係を捉え、変化の様子を今まで学習してきたことを使って表現しよう。</p>	<p>○表、式、グラフを活用しながら水槽が満水になるまでの時間と高さの関係を説明する。</p> <p>○単元全体等の学習を振り返って、「学びの足跡シート」に分かったことや疑問、方法知などを記述する。</p>	思 態	○ ○	<p>思②：行動観察、ノート観察</p> <p>思②：小テスト 態②：行動観察、「学びの足跡シート」</p>
		<p>【単元全体の振り返り】 比例と同じで、一定の割合で変化していく関係だった。式は <math>y = ax + b</math> (<math>b = 0</math> のときが比例) で表され、グラフは直線になった。グラフが曲がる関数はないか調べてみたい。</p>				
評価	<p>◎単元で学習したことがどの程度身に付いているかを自己評価できるようにする。</p>	<p>○単元全体の学習内容についてのテストに取り組む。</p>	知 思	○ ○	<p>知：単元テスト 思：単元テスト</p>	

※表中の備考に示した、生徒の学習状況を把握するために想定される評価方法

- ・行動観察及びノート観察：生徒の発言やつぶやき、机間指導等を通じて捉えた生徒の学習への取組、ノートの記述などに基づいて評価する。
- ・ノート：生徒のノートやワークシート、レポート等を授業後に回収し点検して評価する。
- ・小テスト：授業内で5～10分程度の小テストを行って回収し、その結果に基づいて評価する。
- ・学びの足跡シート：学習で「分かったこと・大切な考え方」「まだはっきりしないこと・知りたいこと」などを生徒に記述させ、学習結果や過程を振り返り、問題解決の過程や学習内容の有用性を実感したり、学習意欲を高めたりしているかなどを評価する。

※「はばたく群馬の指導プランⅡ」に基づく授業を参考にして作成



# 【中学校理科】

## 単元の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け 〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>AIに関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、光と音を理解していると、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。</p> <p>【知-①】 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているか</p> <p>【知-②】 観察や実験などに関する基本操作や結果の記録や整理、活用の仕方を身に付けているか</p>	<p>〇〇について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、物体の運動の規則性や関係性を見いだして表現している科学的に探究している。</p> <p>【思】 科学的に探究する過程において思考・判断・表現しているか</p> <p>1年 問題を見だし</p> <p>2年 解決する方法を立案して</p> <p>3年 探究の過程を振り返るなど</p>	<p>〇〇に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p> <p>【態】 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとしているか</p>

### はばたく群馬の指導プランⅡ 単元のつくり方

#### 過程と基本的な学習活動

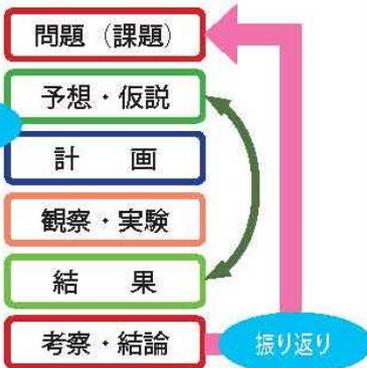
ふれる・つかむ

1 自然事象に働きかけ、単元の課題をつかむ。  
◇対象となる自然事象について知っていることを発表する。  
◇自然事象に触れ、気づきや疑問を共有する。

【単元の課題】  
〈単元全体で解決する大まかな内容〉

#### 2 問題解決(探究)の過程に沿って観察実験を行い、問題(課題)を解決する。

##### 問題解決の過程(探究の過程)



##### 次の問題解決(探究)の過程

##### 次の問題解決(探究)の過程

#### 3 学習をまとめ、自然や生活にあてはめる。

##### 単元のまとめ

- ◇単元の課題について振り返り、分かったことを図や言葉でまとめる。  
◇学習内容を別の自然事象に適用したり、ものづくりをしたりする。

#### 評価の場面(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
【知-①】 単元の学びに必要な知識や技能 <b>記</b>	【思】 課題の設定	
<b>探究の過程</b> 各単位時間で重点を置く評価の観点は、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。		
【知-②】 <b>記</b> 器具の操作や、結果の記録	【思】 <b>記</b> 科学的に探究する力	【態】 科学的に探究しようとする態度
【知-①】 <b>記</b> 概念や原理・法則についての理解		【態】 <b>記</b> 習得した知識及び技能を活用して、課題を解決しようとする態度

主に学習活動において、児童の学習状況をみとり、評価をすることになるので、単元が、問題解決的な学習でない限り、評価をすることはできません。

「指導に生かす評価」  
(学習状況を見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、児童生徒の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

「評定に用いる評価」  
(評価したことを記録に残す = **記**)

- ・目標の実現状況が子供の反応から顕著に見られる場面を精選します。
- ・知識・技能の技能面、思考、判断・表現については、観察、実験の中や、その前後で学習状況を捉えます。

指導計画 理科 第1学年 単元名「物質のすがた 3章 物質の状態変化」(全9時間計画)

目標	(1) 身の回りの物質の性質や変化に着目しながら、状態変化と熱、物質の融点と沸点を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。 (2) 身の回りの物質について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見だして表現すること。 (3) 状態変化に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究する態度を養うこと。		
評価 規 準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	身の回りの物質の性質や変化に着目しながら、状態変化と熱、物質の融点と沸点についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	身の回りの物質について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、状態変化と熱、物質の融点と沸点の物質の規則性や関係性を見だして表現しているなど、科学的に探究している。	身の回りの物質に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

過程	時間	◎ねらい・課題	☆振り返り・考察・結論(意識)	重点	記録	備考	
ふれる・つかむ	1	○身近な状態変化に触れたり、状態変化についての説明を聞いたりすることを通して、単元の課題をつかむ。	☆状態変化するとき体積や質量はどうなるんだろう。 ☆状態変化にはどんなきまりがあるんだろう。	知	○	・物質の状態変化は、状態が変わるだけで、物質そのものは変化しないことを理解している。  [記述分析]	
	<b>【単元の課題】物質が状態変化するときには、どのようなきまりがあるのだろうか。</b>						
	1	○エタノールの状態変化の様子を基に、ロウの状態変化について予想することを通して、実験への見通しをもたせる。  物質の状態が変化するとき、体積と質量はどうなるだろうか。	☆エタノールが液体から気体へと状態変化するとき、体積がすごく増えるんだな。 ☆気体になれば、質量が減るのではないかな。	思		・ポリエチレンの袋が膨らむ様子から、エタノールを加熱して状態変化が起こると、体積が増えることを表現している。 [記述分析]  指導に生かす評価	
追究する	1	○ロウの状態変化についての観察、実験を通して、体積は変化するが質量は保存されることを見いだして理解させる。	☆ロウは状態変化しても質量は変化しないけど、体積は液体から固体になると減るのだな。	思	○	・ロウの状態が変化する際、体積は変化するが質量は保存されることを見いだして表現している。  [行動観察、記述分析]	
	1	○状態変化について粒子のモデルで説明することを通して、状態変化を粒子の運動の様子と関連	☆温度が変化すると物質の粒子の集まり方が変化するから、状態変化するんだな。	態		・物質の状態変化を粒子の運動と関係付けて、粒子のモデルを使って説明しようと	

中学校・理科

	<p>付けてが理解させる。</p> <p>物質の状態変化を、粒子を使ったモデルで表すとどうなるだろうか。</p>	<p>☆状態変化しても質量が変わらないのは、粒子の数が変わらないからなんだな。</p>			<p>している。 [記述分析]</p>
追 究 す る	<p>1 ○エタノールが沸騰するときの温度を測定することを通して、純物質は状態が変化している間は温度が変化しないことを理解させる。</p> <p>物質を加熱したとき、水の場合と同じような温度の変わり方になるのだろうか。</p>	<p>☆エタノールも水と同じように状態変化している最中は温度は一定になることが分かった。</p> <p>☆エタノールの沸点は水より低いのだな。物質によって、沸点は違うのかな。</p>	知	○	<p>・エタノールを加熱したときの温度変化を時間ごとに記録し、結果を正しくグラフに表すことができる。</p> <p>[記述分析]</p> <p>記録に残す評価</p>
	<p>1 ○物質は融点や沸点を境に状態が変化することを知り、ある温度のときの様々な物質の状態を考えることを通して、融点や沸点の測定により未知の物質を推定できることを理解させる。</p>	<p>☆物質によって融点や沸点が決まっているんだな。</p> <p>☆融点や沸点を調べれば、何の物質なのかが分かるのだな。</p>	知		<p>・物質の状態が変化する温度は物質ごとに決まっていることを理解している。</p> <p>[記述分析]</p>
	<p>1 ○エタノールの状態変化の様子を基に、ロウの状態変化について予想することを通して、実験への見通しをもたせる。</p> <p>加熱をすることで、赤ワインをエタノールと水に分けられないだろうか。</p>	<p>☆エタノールと水は沸点が違うから、加熱すれば分けられるのではないかな。</p> <p>☆2つの液体が混ざっているから、一緒に気体になって出てきてしまって分けられないのではないかな。</p>	思		<p>・固体と液体の混合物との違いに着目し、液体の混合物の分離に関する問題を見いだそうとしている。</p> <p>[行動観察、記述分析]</p>
	<p>1 ○沸点が異なることを利用して、2種類の液体の混合物から物質を分離できることを見いだして理解させる。</p>	<p>☆沸点の違いを利用すれば、液体の混合物も分けられるのだな。</p>	思	○	<p>・赤ワインを蒸留した結果を分析して解釈し、沸点の違いにより物質の分離ができることを見いだして表現している。</p> <p>[記述分析]</p>
ま と め る	<p>1 ○身近な状態変化について、その仕組みや原因を説明する活動を通して、日常生活との関わりの中で状態変化を捉え直させる。</p> <p>アルミ缶のリサイクル方法を説明しよう。</p>	<p>☆アルミニウムを加熱して液体にすれば、自由に形を変えてリサイクルできるんだな。</p> <p>☆日常生活の中で、他にも状態変化が利用されているものがないか、知りたいな。</p>	態	○	<p>・習得した知識・技能を活用して、物質の状態変化と日常生活や社会と関連された課題を粘り強く解決しようとしている。</p> <p>[行動観察、記述分析]</p>

※「はばたく群馬の指導プランⅡ」に基づく授業を参考にして作成

※日々の授業の中で生徒の学習状況を把握して指導の改善に生かすことは重要であるため、生徒全員の観点別の学習状況を記録に残す場面以外においても、教師が特徴的な生徒の学習状況を確認する必要がある。



# 【中学校音楽】

## 題材の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

		評価規準		※枠内は定型文例
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A 表現 (第1学年の例)	・[事項イの(ア)又は(イ)のいずれか又は両方]について理解している。 【知識】	[音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などのうち、その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなるものとして適切に選択した主な音楽を形づくっている要素]を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うか(※器楽分野の場合は「演奏するか」、創作分野の場合は「音楽をつくるか」)について思いや意図をもっている。	[音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などのうち、その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなるものとして適切に選択した主な音楽を形づくっている要素]を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うか(※器楽分野の場合は「演奏するか」、創作分野の場合は「音楽をつくるか」)について思いや意図をもっている。	[その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な、扱う教材曲や曲種等の特徴、学習内容など、生徒に興味・関心をもたせたい事柄]に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱(※器楽分野の場合は「器楽」、創作分野の場合は「創作」、鑑賞領域の場合は「鑑賞」)の学習活動に取り組もうとしている。
	・[事項ウの(ア)又は(イ)のいずれか又は両方]を身に付け、歌唱(※器楽分野の場合は「器楽」、創作分野の場合は「創作」)で表している。 【技能】			
B 鑑賞 (第2・3学年の例)	[事項イの(ア)、(イ)、(ウ)のうち一つ以上]について理解している。 【知識】  (「技能」に関する評価規準は設定しない。)	[音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などのうち、その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなるものとして適切に選択した主な音楽を形づくっている要素]を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うか(※器楽分野の場合は「演奏するか」、創作分野の場合は「音楽をつくるか」)について思いや意図をもっている。	[音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などのうち、その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなるものとして適切に選択した主な音楽を形づくっている要素]を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うか(※器楽分野の場合は「演奏するか」、創作分野の場合は「音楽をつくるか」)について思いや意図をもっている。	[その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な、扱う教材曲や曲種等の特徴、学習内容など、生徒に興味・関心をもたせたい事柄]に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱(※器楽分野の場合は「器楽」、創作分野の場合は「創作」、鑑賞領域の場合は「鑑賞」)の学習活動に取り組もうとしている。

### はばたく群馬の指導プランⅡ 題材のつくり方 「A表現」と「B鑑賞」の関連を図った題材を例に

#### 過程と基本的な学習活動

#### 1 題材の課題を把握する。

- ◇音や音楽と出会う。
- ◇出会った音や音楽について、その雰囲気や音楽を形づくっている要素とを結び付けて聴き取る。
- ◇聴き取ったことを基に、どのような音楽表現にしたいかについてイメージをもつ。
- ◇題材の課題をつかむ。

#### 【題材の課題】

〈題材で取り組む大まかな音楽表現〉

- ◇題材の課題解決に向けての大まかな見通しをもつ。
- ◇音や音楽の雰囲気を醸し出す理由を、音楽を形づくっている要素等に着目して探る。

#### 2 音楽を形づくっている要素と思いや意図とを関連付けながら表現を探る。

#### 単位時間

【めあてをつかむ】

◇表したい思いや意図をもつ。

繰り返す 更新する  
◇音楽を形づくっている要素を手がかりに、表現を試しながら工夫する。

更新する  
◇表現の高まりを共有・共感し、その後の表現に生かす。

【まとめ・振り返りをする】

単位時間

単位時間

単位時間

単位時間

#### 3 発表等を通して表現の高まりを実感し、題材の学びを振り返る

- ◇グループごとの発表や、全体でまとめの演奏等を行う。
- ◇題材の学びを振り返る。

題材全体の振り返り

#### <例> 評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
知 B 鑑賞	思 B 鑑賞	態 B 鑑賞
<b>単位時間</b> 各単位時間で重点を置く評価の観点、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。		
知 A 表現	思 A 表現	態 A 表現
※単位時間の中で、全ての観点について評価するということではありません。		
<b>単位時間</b> 単位時間 単位時間 単位時間		
技 A 表現		態 題材全体

指導と評価の計画の作成に当たっては、はばくプランⅡで示した、各活動を有機的かつ効果的に関連させることによって教科及び学年の目標を実現していくように、内容の構成や主題の設定、適切な教材の選択と配列などに配慮します。

#### 「指導に生かす評価」 (学習状況を継続的に見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、児童の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

#### 「評定に用いる評価」 (評価したことを記録に残す)

＝ 記

・指導計画や授業の展開において、評価規準に基づき、評価の結果を記録に残す場面を精選し、適切に位置付けます。  
・音楽科の「主体的に取り組む態度」は、粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意志をもったりしているかどうかについて、継続的に見取るようにし、題材の最後に記録に残すことが多くなります。

指導計画 音楽科 第2学年 題材名「曲の構成を理解して曲想を味わおう」(全5時間計画)

<p>目標</p>	<p>(1) 曲想と音楽の構造、音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わり、音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解するとともに、創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。</p> <p style="text-align: right;">「知識及び技能」の習得に関する目標</p> <p>(2) 構成、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いたり、まとまりのある創作表現を創意工夫したりする。</p> <p style="text-align: right;">「思考力、判断力、表現力等」の習得に関する目標</p> <p>(3) 「交響曲第5番ハ短調第1楽章」の構成や形式の特徴と構成を生かしたリズムアンサンブルの創作に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞や創作の学習活動に取り組むとともに、構成や形式を生かしたまとまりのある音楽に親しむ。</p> <p style="text-align: right;">「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関する目標</p> <p>目標は、「はばたく群馬の指導プランⅡ」で示されている、「構成や形式等に注目しながら鑑賞したり創作したりすることを通して、曲想と音楽の構造との関わりを理解し、創意工夫を生かした表現をすることができるようにする。」のように、1文で示すことも考えられる。</p>								
<p>評価規準</p>	<p>知識・技能</p> <p>知① 「交響曲第5番ハ短調第1楽章」の曲想と音楽の構造、音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解している。(鑑賞)</p> <p>知識については、事項イの文末を「～理解している」とすることで作成することができる。なお、文頭部分に曲名等を挿入することも考えられる。</p> <p>知② 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解している。(創作)</p> <p>技 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。(創作)</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>思① 構成、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。(鑑賞)</p> <p>思② 構成、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。(創作)</p> <p>技能については、事項ウの文末を、扱う分野に応じて「～を身に付け、[歌唱、器楽、創作のいずれかを選択]で表している」とすることで作成することができる。 ※「B鑑賞」においては設定しない。 ※題材によっては、知技のように、統合した評価規準として設定し、一体的に評価することも考えられる。この場合、評価場面や評価方法等について慎重に検討する。(小学校資料参照)</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>態 「交響曲第5番ハ短調第1楽章」の構成や形式の特徴と構成を生かしたリズムアンサンブルの創作に関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞や創作の学習活動に取り組もうとしている。(鑑賞・創作)</p> <p>その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意志をもったりできるようにするために必要となる取り扱う教材曲の特徴や学習内容など、興味・関心をもちたい事柄を記す。また、その題材の領域及び分野を選択する。</p> <p>構成、テクスチャ等、その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を適切に選択する。</p>						
<p>過程</p>	<p>時間</p> <p>○ねらい めあて</p> <p>つかむ</p> <p>1</p> <p>○動機の反復や変化、旋律の組合せ方等と曲想との関わりが生み出す特質や雰囲気を感じ取ることを通して、曲想と音楽の構造との関わりに興味・関心をもちることができるようにする。</p> <p>動機を意識して聴き、この曲の仕組みを探ろう。</p>	<p>☆振り返り(意識)</p> <p>☆聴いたことのある曲が、「動機」を基に曲がつくられていることを知った。曲のことをさらに知り、それを生かしてリズムアンサンブルを創作していくことが楽しくなってきた。</p>	<p>評価規準(評価方法)</p> <table border="1"> <tr> <td>知・技</td> <td>思</td> <td>態</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>記録</p>	知・技	思	態			
知・技	思	態							
<p>【生徒の学習状況を継続的に見取る】 本題材では、1時間目は記録に残す評価はしないが、知識及び思考・判断・表現の視点で生徒の活動の姿を捉え指導に生かす。それを踏まえて2時間目に知識及び思考・判断・表現について評価する。 ※全員の学習状況を記録に残す場面が設定されていない授業においても、教師の指導の改善や生徒の学習改善に生かすために、生徒の学習状況を確認する。</p>									

中学校音楽科

	2	○「交響曲第5番ハ短調第1楽章」(ベートーヴェン作曲)を聴き、ソナタ形式や曲に込められた思いについて知ることができるようにする。 「交響曲第5番ハ短調第1楽章」を聴き、曲の形式や、曲に込められた思いを探ろう。	【評価したことを記録に残す】 指導計画や授業の展開において、評価規準に基づき、評価の結果を記録に残す場面を精選し、適切に位置付ける。	知① (記述・発言)	思① (記述・発言)		○
追求する	3	○グループごとにリズムアンサンブルのマを決め、前時までの学習を生かして、なるリズム・パターンをつくることのできるようにする。 表したいテーマを決め、基となるリズムをつくろう。	【生徒の学習状況を継続的に見取る】 本題材では、3時間目は記録に残す評価はしないが、知識及び思考・判断・表現の視点で生徒の活動の姿を捉え指導に生かす。それを踏まえて4時間目に知識及び思考・判断・表現について評価する。 ※全員の学習状況を記録に残す場面が設定されていない授業においても、教師の指導の改善や生徒の学習改善に生かすために、生徒の学習状況を確認する。				
	4	○構成図を使い、自分たちの思いや意図にしたリズムアンサンブルを試行する活動をして、思いや意図を基に構成を意識したものを創意工夫することができるようにする。 構成を工夫して、リズムアンサンブルをつくろう。		ルになった。発表前にアンサンブルを焼く様子を表すリズムのつながり方や重なり方を整えて、みんなの前で発表したい。	知② (記述・発言)	思② (記述・発言・聴取)	
まとめる	5	○グループでつくったリズムアンサンブルを演奏し合い、お互いに聴き合うことを通して、創意工夫する楽しさや喜びを実感できるようにする。 グループの発表を通して、それぞれのリズムアンサンブルのよさや面白さを味わおう。	☆作曲家は曲をつくるために、構成や形式を踏まえているだけでなく、「このように運命の扉をたたく」といったように、思いを込めていることが分かった。リズムアンサンブル 【評価したことを記録に残す】 本題材では、粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意志をもったりしているかどうかについて、継続的に見取るようにし、第5時で記録に残す。	技 (聴取・発言・記述)		態 (観察・記述・聴取)	○

※「はばたく群馬の指導プランⅡ」を基に作成

※記録欄の○印…全員の学習状況を記録に残す場面

【参考：題材の評価規準の作成のポイント】

＜表1 第1学年「A表現」の例＞

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・[事項イの(ア)又は(イ)のいずれか又は両方]について理解している。【知識】 ・[事項ウの(ア)又は(イ)のいずれか又は両方]を身に付け、歌唱(※器楽分野の場合は「器楽」、創作分野の場合は「創作」)で表している。【技能】	[音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などのうち、その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなるものとして適切に選択した主な音楽を形づくっている要素]を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うか(※器楽分野の場合は「演奏するか」、創作分野の場合は「音楽をつくるか」)について思いや意図をもっている。	[その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な、扱う教材曲や曲種等の特徴、学習内容など、生徒に興味・関心をもたせたい事柄]に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱(※器楽分野の場合は「器楽」、創作分野の場合は「創作」)の学習活動に取り組もうとしている。

＜表2 第2学年及び第3学年「B鑑賞」の例＞

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[事項イの(ア)、(イ)、(ウ)のうち一つ以上]について理解している。【知識】 (「技能」に関する評価規準は設定しない。)	[音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などのうち、その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなるものとして適切に選択した主な音楽を形づくっている要素]を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、[事項アの(ア)、(イ)、(ウ)のうち一つ以上]について考え、よさや美しさを味わって聴いている。	[その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な、扱う教材曲や曲種等の特徴、学習内容など、生徒に興味・関心をもたせたい事柄]に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

※表1及び表2のゴシック体の[ ]内は、題材で扱う学習内容に合わせて適切に選択した指導事項に置き換えたり、適切な文言を挿入したりする部分である。



# 【中学校美術】

## 題材の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準		※枠内は定型文例と□は評価内容
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に○○などを全体のイメージや作風で捉えていることを理解している。</p> <p>【知識】〔共通事項〕より作成/下線部は、題材に即して、文言を削除したり追記したりする。造形的な視点を豊かにするための知識として評価する。</p> <p>学習指導要領「2 内容の取扱いと指導上の配慮事項の〔共通事項〕の取扱いと題材との関連を考慮する。</p> <p>例示は、第1学年</p> <p>・材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。</p> <p>・材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表している。</p> <p>【技能】A「表現」(2)ア(ア)(イ)より作成/題材によっては、(ア)(イ)の両方を示さない場合もある下線部を具体的な用具や材料に変えて示す。表現の活動を通して育成する技能の資質・能力を評価する。</p>	<p>・対象や事象を(深く)見つめ～</p> <p>・構成や装飾の目的や条件～</p> <p>・伝える目的や条件～</p> <p>・使う目的や条件～</p> <p>～主題を生み出し…表現の構想を練っている。</p> <p>【発想・構想】 A「表現」(1)ア(ア)イ(ア)(イ)(ウ)より作成下線部ほか、題材に即して具体的な文言で示したり、文言を削除・追記したりする。発想・構想に関する資質・能力を評価する。</p> <p>・造形的なよさや美しさを感じ取り～</p> <p>・目的や機能～</p> <p>・身の回りにある～</p> <p>・身近な地域や～</p> <p>～見方や感じ方を広げている。(深めている。)</p> <p>【鑑賞】 B「鑑賞」(1)ア、(ア)(イ)イ、(ア)(イ)より作成鑑賞の関する資質・能力を評価する。</p>	<p>・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく(主体的に)目的や機能などを考えた～</p> <p>～表現の(幅広い)学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>【表現】 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」を身に付けようしたり、発揮しようとする事へ向かう主体的な態度を評価する。</p> <p>【鑑賞】 下線部は、題材に即して具体的な文言で示す作者の心情や表現の意図などを考えるなどして、見方や感じ方を深めようとしている姿を評価する。</p>
		( )内は、第2学年及び第3学年

### はばたく群馬の指導プランⅡ 題材のつくり方 (例:表現の題材)

過程と基本的な学習活動	
出会う	<p>1 表現の見通しをもつ。</p> <p>◇題材や材料、表現方法などとの出会い、イメージを膨らませる。</p> <p>◇題材の課題を立てる。</p> <p>【題材の課題】 〈題材全体で学習する 大まかな内容〉</p>
試す・広げる	<p>2 表したいことや主題を発想・構想する。</p> <p>◇大まかな制作の順序や扱う材料や用具、表現方法を知る。</p> <p>◇思いや願いを膨らませ、表したいことや主題を生み出す。</p> <p>◇表したいことや主題を基に、構想を練る。</p> <p>◇材料や用具、表現方法を習得する。</p>
表す	<p>3 構想を基に制作する。</p> <p>◇思いに応じて材料や用具、表現方法を選んだり組み合わせたりする。</p> <p>◇材料や用具などの特性を生かし、表し方を工夫して制作する。</p> <p>◇制作途中の作品を相互鑑賞し、よさなどを共有する。</p>
振り返る	<p>4 作品を鑑賞し表現活動を振り返る。</p> <p>◇作品を鑑賞し合い、よさや工夫点を話し合う。</p> <p>◇題材全体の振り返り</p>

### <例> 評価の位置付け (表現の題材)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
<p>【知識】形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しているかを見取り指導に生かす。</p>	<p>【発想・構想】 主題を生み出し構想を練っているか評価</p>	<p>【表現態度】 「知識理解」や「発想・構想」に関する態度を評価</p>
<p>「出会う過程」の活動内容より、重点を置く評価の観点は変わります。(3観点全て評価するわけではありません。)</p>		
<p><b>単位時間</b></p> <p>各単位時間で重点を置く評価の観点は、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。</p>		
<p>【知・技】題材で使用する材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表しているか、制作の順序などを考えながら見通しをもって表しているか、知識と一体的に評価</p>	<p>【発想・構想】 主題を生み出し構想を練っているか暫定的に評価</p>	<p>【表現態度】 「発想・構想」や「知識・技能」に関する態度を評価</p>
<p>【知・技】完成作品やワークシートなどから評価を再確認</p>	<p>【鑑賞】 作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えているか評価</p>	<p>【表現態度】 題材全体を通して評価</p>
<p>【知・技】完成作品やワークシートなどから評価を再確認</p>	<p>【鑑賞】ワークシートなどでの見取り</p>	<p>【鑑賞態度】 楽しく(主体的に)取り組もうとしている態度を評価</p>
<p>&lt;題材終了後&gt;</p> <p>・題材終了後、完成作品やワークシート、アイデアスケッチなどを基に、必要に応じて評価を修正する。</p>		

### 「指導に生かす評価」(学習状況を見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、生徒の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

### 「評定に用いる評価」(評価したことを記録に残す) = 記

・記は、題材の観点別学習評価の総括に用いる「題材の評価規準」を示しています。

・目標の実現状況が生徒の反応から顕著に見られる場面を精選します。

・学習過程の後半での、記録が多くなることを考えられます。

目標を設定するに当たり、学習指導要領の「学年の目標」「内容」、学習指導要領解説を基に指導することを確認。「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」は「内容」を参考にし、「学びに向かう力、人間性等」は、学年の目標(3)を参考にする。

目標

【知識及び技能】

- ・形や色彩などの性質が感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、美しさやモチーフに対する思いなどを全体のイメージで捉えることを理解する。(知識)
- ・鉛筆の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表したり、制作の順序などを考えながら見通しをもって表したりできるようにする。(技能)

知識は、「共通事項」を基に設定する。題材に応じて、「材料」「光」などの文言を省略して表すことが考えられる。  
下線部については、題材に応じて、主題などについて具体的に示すことが考えられる。

技能は、A表現(2)ア(ア)(イ)を基に設定する。波線部については、基の文言「材料や用具」を題材に応じて具体的に示すことが考えられる。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・愛着のある物を見つめ、感じ取ったことや形や色彩の特徴や美しさ、モチーフに対する思いなどを基に主題を生み出し、画面全体とモチーフとの関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。(発想・構想)
- ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。(鑑賞)

A表現(1)ア(ア)を基に、発想・構想に関する目標を設定する。「目的や機能考えた表現」では、イ(ア)(イ)(ウ)のいずれか一つを選んで、指導事項を基に設定する。また、下線部については、題材に応じて、具体的に記述したり、文言を省略したりする。

B鑑賞(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)を基に、鑑賞に関する目標を設定する。題材に応じて具体的な文言を追記したり、文言を省略したりする。その際、A表現(1)アに対してはB鑑賞(1)アを関連付けるなど、発想や構想に関する資質・能力との関連を踏まえて適切に設定し、発想や構想と鑑賞の学習の双方に働く中心となる考えを明確にする必要がある。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく美しさやモチーフに対する思いを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

学年の目標(3)を基に、目標を設定する。

評価規準は、「目標に準拠した評価」を行うこと、「指導と評価の一体化」をより一層重視する観点から、目標の文言の一部変更で設定可能である。重要なのは、題材で育成する資質・能力を指導事項を踏まえた上で、目標として明確に設定することである。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>・形や色彩、材料などの性質が感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、<u>美しさやモチーフに対する思いなどを全体のイメージで捉えることを理解している。</u>(知識)</p> <p>知識は、「共通事項」(1)(ア)(イ)を基に設定する。文末を「～している。」とする。</p> <p>・<u>鉛筆の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表したり、制作の順序などを考えながら見通しをもって表したりしている。</u>(技能)</p> <p>技能は、A表現(2)ア(ア)(イ)を基に設定する。文末を「～している。」とする。</p>	<p>・<u>愛着のある物</u>を見つめ、感じ取ったことや形や色彩の特徴や美しさ、モチーフに対する思いなどを基に主題を生み出し、画面全体とモチーフとの関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を<u>練っている。</u>(発想・構想)</p> <p>A表現(1)アを基に発想・構想に関する評価規準を設定する。「目的や機能考えた表現」では、イ(ア)(イ)(ウ)を基に設定する。文末を「～している。」とする。</p> <p>・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、<u>見方や感じ方を広げている。</u>(鑑賞)</p> <p>B鑑賞(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)を基に設定する。文末を「～している。」とする。</p>	<p>・美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく美しさやモチーフに対する思いを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする学習活動に<u>取り組もうとしている。</u>(表現)</p> <p>・美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく美しさやモチーフに対する思いを基に見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に<u>取り組もうとしている。</u>(鑑賞)</p> <p>「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」を身に付けようとしたり、発揮しようとしたりすることへ向かう生徒の主体的な態度を評価する。文末を「～しようとしている。」とする。</p>

過程	時間	☆振り返り(意識)	評価規準(評価方法)		
			知技	思判表	態
出会う	1	<p>○ねらい めあて</p> <p>○参考作品を鑑賞し、描かれているものや作者の考え、表現の工夫などをワークシートにまとめ、本題材について活動を通して、活動のイメージを捉え、題材の課題を立てる。</p> <p>本時のめあて 先輩の作品を鑑賞して、学習課題</p>	<p>☆元軍の作品を鑑賞して、使用</p> <p>【指導に生かす評価】 1時間目は記録に残す評価はしないが、「態度」や「知識」の視点で生徒の活動の姿を捉え、指導に生かす。それを踏まえて7時間目に「知識・技能」について一体的に評価する。</p>	<p>○は記録に残す評価</p> <p>知識 観察 ワーク シート</p> <p>↓</p>	<p>態 観察 ワーク シート</p> <p>↓</p>

**中学校・美術**

	立てよう。	んな主題にするかモチーフをじっくり観察して考えてみようと思う。			
試す・広げる	<p>題材のめあて 身近なものをよく観察し、描き方や構図を工夫して、主題を表そう。</p>		<p>【記録に残す評価】 指導計画や授業の展開において。評価規準に基づき、評価の結果を記録に残す場面を適切に位置付けて精選する。</p>	<p>○発想 構想 観察 対話 ワーク シート アイデア スケッチ</p>	<p>態表 観察 対話</p>
	<p>○モチーフを自分との関わりで見たいや願いなどを言葉で整理する活動を通して、主題を生み出し、主題を効果的に表すための構図をモチーフの配置などの視点から考えてスケッチしよう。</p> <p>本時のめあて 表したいこと（主題）とそのための表現方法を考えよう。</p>	<p>【記録に残す評価】 2時間目では、「発想・構想」について暫定的に評価し記録に残すが、主題の変化や構図の変化など、7時間目で再度見取り評価する。</p> <p>これを表すためにグリッブを手間にして大きく見せた。</p>			
つくる・表す	<p>○前時のスケッチを生かして画用紙に構図を取り、モチーフを大まかな形をとらえてあたりを付ける。</p> <p>本時のめあて スケッチを生かし、大まかに形をとらえて描こう。</p>		<p>☆前時に考えた方法で構図を決めつつ、微調整をした。画面の上下左右に目印を付けることでイメージ通りに形を描くことができた。 ☆簡単な形に置き換えて描くことで形をイメージ通りに描くことができた。</p>	<p>技能 観察 作品</p>	
	<p>○モチーフを陰影の視点から見つめ、立体感を表すために、調子をつけるなど鉛筆の使い方を工夫する。</p> <p>本時のめあて 立体感を表すために、鉛筆の方を工夫しよう。</p>		<p>☆鉛筆の使い方を工夫して調子をつけることができた。グリッブの使い方を工夫する。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」は、発想や構想することに進んで取り組んでいるか、技能を働かせることに進んで取り組んでいるか、鑑賞することに進んで取り組んでいるかを題材全体を通して捉える。</p>		
	<p>○主題を確認し、見通しをもつて進めよう。</p> <p>本時のめあて 主題を意識しながら計画的に制作を進めよう。</p>		<p>確認することで、自分が表したかったことを意識しながら制作を進めることができた。残りが2時間なので、次回は細部を中心に描いて完成に近づけたい。</p>		
	<p>○主題を効果的に表すための表し方を追求しながら細かく描いていこう。</p> <p>本時のめあて 主題を効果的に表すために、モチーフを詳しく観察して、細部の描き方を工夫しよう。</p>		<p>ゲームの傷や鉛筆の使い方など、モチーフの要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えているかを評価する。</p> <p>モチーフを印象的に見せる工夫をした。主題をよく表せたと思う。</p>	<p>知識 技能 観察 作品 ワーク シート アイデア スケッチ</p>	<p>○発想 構想 作品</p>
	<p>○制作した作品の相互鑑賞を通して、表現の工夫を想像し、よさを認めよう。</p> <p>本時のめあて 主題や工夫を想像したり、よさを認め合ったりしよう。</p>		<p>【記録に残す評価】 指導計画や授業の展開において。評価規準に基づき、評価の結果を記録に残す場面を適切に位置付けて精選する。</p> <p>画面構図や主題や鑑賞することができた。また、作者の言葉を聞くと工夫点がよく作品に表れていて、深く作品を見つめることができた。</p>	<p>知識 観察 作品</p>	<p>鑑賞 観察 対話</p>
振り返る				<p>知識 技能 観察 作品</p>	<p>態表 観察 対話 作品 カード</p>

<授業外・題材が終了後>※題材に応じて授業外での評価の場面が考えられます。

**知識・技能** 完成作品やワークシートなどから「知識・技能」の評価を再確認し、必要に応じて修正する。

**鑑賞** 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えて見方や感じ方を広げられているかをワークシートなどで見取り評価する。

**発想・構想** 発想や構想について、主題や構想の工夫などを記述したワークシート等を完成作品と併せて再度見取り必要に応じて修正する。

※「はばたく群馬の指導プランⅡ」に基づく授業を参考にして作成



# 【中学校保健体育】

## 単元の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①〇〇〇について運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。</p> <p>【<b>知技(体育分野)</b>】 ・基本的な技能 <b>技能</b> ・合理的な実践や運動を豊にする実践についての理解 <b>知識</b></p>	<p>①〇〇〇について、自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。</p> <p>【<b>思判表(体育分野)</b>】 ・自己や仲間の課題発見、課題に応じた選択と工夫 <b>思考・判断</b> ・言葉や文字等で表出 <b>表現</b></p>	<p>①運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>【<b>態度(体育分野)</b>】 ・公正、協力、責任、参画、共生及び健康・安全の具体的な指導内容を踏まえて確認</p>
<p>②△△△における個人生活の健康・安全について、科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。</p> <p>【<b>知技(保健分野)</b>】 ・基本的な技能 <b>技能</b> ・健康・安全についての科学的な理解 <b>知識</b></p>	<p>②△△における個人生活の健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。</p> <p>【<b>思判表(保健分野)</b>】 ・課題発見、科学的な思考判断 <b>思考・判断</b> ・言葉や文字等で表出 <b>表現</b></p>	<p>②健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>【<b>態度(保健分野)</b>】 ・学習状況の確認 ・課題の追求</p>

【**体育**】単元の前半に、特性や技術的な知識等の学習機会を設け、練習する時間を設定し、その後適宜適切な形で技能を評価するように工夫する。

【**保健**】すべての時間に重点や記録に残す評価を入れるのではなく、学習のまとまりの学習内容と学習活動に対応させてバランス良く評価するように工夫する。技能は出来映えのみを評価するのではなく、知識と一体的に評価する。

【**体育**】知識や技能を活用して、課題発見、課題解決のための選択、仲間に伝え合う等の評価ができるように工夫する。

【**保健**】単元を通して課題の発見、改題解決、表現等の評価ができるように工夫する。

【**体育**】各項目をバランスよく評価する場面を設定するとともに、継続的に指導と評価ができるように工夫する。

【**保健**】性格や行動面の傾向を評価することでよいことに留意し、自らの学習を調整しながら粘り強く取り組もうとしている意志的な側面を評価できるように工夫する。

### はばたく群馬の指導プランⅡ 単元のつくり方

過程と基本的な学習活動
<p><b>1 単元の課題をつかむ。</b></p> <p>◇試しの活動(記録の測定やゲーム等)や課題把握につながる身近な事象(生活)等を見直す。 ◇単元の課題を明確にする。</p> <p style="text-align: center;"><b>単元の課題</b> ＜単元の目標を達成するための学習内容＞</p> <p>◇追究内容や方法、学習の計画を明確にする。</p>
<p><b>2 単元の課題の解決に向き、単位時間ごとに追究する。</b></p> <p style="text-align: center;"><b>【単位時間】</b></p> <p>◇課題解決に必要な知識や基本的な技能を習得する。(活動1) ◇習得した知識や基本的な技能を活用して課題を解決する。(活動2) ※学習する領域や学習スタイル(個人・集団)にあった単元をつくるのが大切。 体育授業プログラム等資料参考 ※保健領域は、内容に応じて、単位時間(小単元)ごとに追究する。</p> <p style="text-align: center;"><b>【単位時間】</b></p> <p style="text-align: center;"><b>【単位時間】</b></p> <p style="text-align: center;"><b>【単位時間】</b></p>
<p><b>3 単元の課題についてまとめる。</b></p> <p>◇学習の成果を発表する(試す)。 ・演技会や記録会、リーグ戦等 ＜運動領域・体育分野＞ ・グループ発表やレポート紹介等 ＜保健領域・保健分野＞</p> <p>◇学習成果を確認し整理する。</p> <p>◇単元全体を振り返り、習得した技能や知識等を整理し、日常生活や次の単元に生かせることをクラス全体で共通理解する。 ※学年全体</p> <p>◇学習の成果を確認する。</p> <p style="text-align: center;"><b>◇単元全体の振り返り &lt;個人&gt;</b></p>

<例> 評価の位置付け		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
<p>◆3観点の評価規準をバランス良く配置する工夫</p> <p>◆3観点の評価規準の関連を図る工夫</p>		
【 <b>知技</b> 】 合理的な実践についての理解	【 <b>思判表</b> 】 課題発見	【 <b>態度</b> 】 健康・安全な態度 学習状況
<p><b>単位時間</b></p> <p>各単位時間で重点を置く評価の観点は、指導者の授業の「ねらい(指導内容)」によって、変わります。</p>		
【 <b>知技</b> 】 合理的な実践についての理解 基本的な技能等	【 <b>思判表</b> 】 選択や工夫 他者に伝える 等	【 <b>態度</b> 】 公正、協力、等 課題の追求
<p>※評価の観点は、1時間につき1~2程度にするなど、評価するにあたり無理のない計画を立てるようにします。ただし、重点項目以外は評価しないということではなく、必要に応じて随時記録に残しておくことが大切です。</p>		
<b>単位時間</b>		
<b>単位時間</b>		
<b>単位時間</b>		
【 <b>知技</b> 】 合理的な実践についての理解 基本的な技能等	【 <b>思判表</b> 】 選択や工夫 他者に伝える 等	【 <b>態度</b> 】 参画、共生、等 課題の追求
【 <b>知技</b> 】 合理的な実践についての理解 基本的な技能等	【 <b>思判表</b> 】 課題発見 選択や工夫 他者に伝える	【 <b>態度</b> 】 公学習状況 公正、協力等 課題の追求

「指導に生かす評価」  
(学習状況を見取る)

単位時間において、生徒一人一人の学習状況を明確にし、生徒の学習改善につなげると同時に、教師は指導の成果や課題を明らかにし、指導改善に生かします。

「指導と評価の一体化」の充実

「評定に用いる評価」  
総括的評価…**総**

・目標の実現状況が生徒の反応から顕著に見られる場面を精選します。  
・単元の前半に設定する評価については、その結果をもって単元全体の総括的評価とするのではなく、必要に応じて単元終了時まで指導と評価を繰り返すことが大切です。

指導計画 保健体育科 第2学年 単元「走り高跳び」(全7時間計画)

目標	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等					
	○記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができるようにする。	○動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。	○積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。					
	単元の目標は、「内容のまとめりごと」学習指導要領解説本文等を参考に、各学校において授業で育成を目指す資質・能力を明確化する。		3観点の表記に注意					
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
知識	①自己の記録に挑戦したり、競争したりする楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、 <u>言ったり書き出したりしている。</u> ②技術の名称や「助走」「踏み切り」「空中動作」における動きのポイントを <u>理解している。</u>	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを <u>伝えている。</u> ②提供された練習方法から、自己の課題に応じて、動きの習得に適した練習方法を <u>選んでいる。</u>	①勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうと <u>している。</u> ②分担した役割を果たそうと <u>している。</u> ③健康・安全に <u>留意している。</u>					
技能	①跳躍の頂点とバーの位置が合うように、リズムカルな助走から、自己に合った踏切位置で強く踏み切ることが <u>できる。</u>	単元の評価規準は、生徒の実態や指導計画等を考慮して、「内容のまとめりごと」の評価規準より記載する。評価規準作成に当たっては、学習指導要領解説の例示を活用し、例示の語尾表記を変えたものにする。						
	「体育分野」においては、知識と技能は別々に評価する場面が想定されることから、評価規準を別々に設定する。		3観点の評価規準をバランス良く配置する。					
過程	時間	◎ねらい・めあて・○主な学習活動	☆振り返り(意識)	知	技	思	能	◇評価規準<方法>
つかむ	1	◎学習の流れを理解するとともに、目標記録を設定したり、競技規則を知ったりする活動を通して、今後の学習に対する意欲を高めることができるようにする。  走り高跳びの競技規則を理解するとともに学習の流れを知り、今後の授業の見通しをもとう。  ○単元の見通しをもつ。 ○身長と50m走の記録から、自身の目標記録を設定する。 ○跳躍時におけるルールについて知る。	☆目標記録を身長と50m走の記録で決めるなら身長が低い僕も活躍できそうだ。 ☆両足で跳んだり、バーを飛び越す前にバーより前方に体や脚を出してしまったりしたら失格になるんだ。	①				◇自己の記録に挑戦したり、競争したりする楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 (観察・ワークシート)
	1	◎示範の映像から、上達のためのポイントを見つけることができるようにする。  記録を向上させるためポイントを見つけよう。  ○映像から、「助走」「踏み切り」「空中動作」それぞれのポイントを見つけ、整理する。	☆フォームだけでなく、助走の角度や踏み切り位置も意識することが大事だね。 ☆走り幅跳びの技能も参考になりそうだ。	(2)			③	◇健康・安全に留意している。(観察・ワークシート)
追求する	3	◎仲間との関わり合いを通して、「助走」「踏み切り」「空中動作」の技能を高めることができるようにする。  仲間と意見交流しながら、「助走」「踏み切り」「空中動作」の効率的な動きを身に付けよう。  ○自分の課題を把握する。 ○課題の解決に繋がる練習を選択する。 ○課題の解決に向けて、意見交流しながら練習する。	☆助走では、スピードも必要だけど、リズムはもっと大事だ。 ☆「イーチ・ニーイ・イチ・ニイ・サン」のリズムで走ると、スムーズに踏み切れたね。	②			①	◇技術の名称や「助走」「踏み切り」「空中動作」における動きのポイントを理解している。(ワークシート(観察)) ◇勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとしている。(観察)
	この時間では、「動きのポイントを理解しているか」をワークシートの記述や観察(発言や会話等)から評価します。動きのポイントを見つけたり、動きのポイントを伝えたりしている場面は、「思考・判断・表現」として評価することもできますが、この時間では、前時で見つけ、整理した動きのポイントを理解しているかどうかを中心に授業で評価します。							

<p>2・3時間目に指導した跳躍（動きのポイント）の技能については、本時に評価します。その際、「努力を要する」状況と判断される生徒がいる場合には個別の指導を行うなどの手立てを行い、単元の進行とともに、その生徒の学習状況の変化を7時間目に最終確認します。</p> <p>具体的な生徒の姿を評価するための評価補助簿等を準備する工夫も必要になってきます。</p>		<p>☆足裏全体で力強く踏み切ることが大事だな。 ☆踏み切るときに、バー（バム）を見ると上手く跳べたよ。</p>	①	<p>◇跳躍の頂点とバーの位置が合うように、リズムカルな助走から、自己に合った踏切位置で強く踏み切ることができる。（観察・記録）</p>
<p>◎記録会に向けて、意見交流しながら自己の課題を解決したり、更に技能を高めたりすることができるようにする。</p> <p>記録会に向けて、意見交流しながら自身や仲間の課題を解決したり技能を更に高めたりしよう。</p> <p>○自己の課題を明確にする。 ○課題の解決に向けて、意見交流しながら練習する。 ○次時に開催する記録会での目標記録を再考し設定する。</p>		<p>☆振り上げ脚の足裏を見せるようにすると、脚が高く上がったよ。</p>	①	<p>◇提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。（観察・ワークシート）</p>
1	<p>◎記録会に向けて、意見交流しながら自己の課題を解決したり、更に技能を高めたりすることができるようにする。</p> <p>記録会に向けて、意見交流しながら自身や仲間の課題を解決したり技能を更に高めたりしよう。</p> <p>○自己の課題を明確にする。 ○課題の解決に向けて、意見交流しながら練習する。 ○次時に開催する記録会での目標記録を再考し設定する。</p>	<p>☆〇〇さんのアドバイスのおかげで、今まで跳べなかった高さが跳べるようになったぞ。 ☆仲間にアドバイスをすることで、自分の考えが整理できたよ。</p>	(①) ②	<p>◇提供された練習方法から、自己の課題に応じて、動きの習得に適した練習方法を選んでいる。（観察・ワークシート）</p>
1	<p>◎これまでの学習で身に付けた技能を試す記録会を実施し、自身の学習成果を実感できるようにする。</p> <p>これまでに身に付けた技能を発揮し、目標記録の達成を目指して頑張ろう。</p> <p>○競技会における競技規則について知る。 ○これまでの学習で身に付けた技能を生かしながら、目標記録の達成を目指し記録会に臨む。 ○単元全体を振り返る。</p>	<p>☆ポイントを意識しながら練習したおかげで、目標の高さを跳ぶことができたぞ。 ☆跳ぶ時のポイントや競技規則を知れたので、機会があったらテレビ中継を観てみよう。</p>	<p>総括的評価</p>	
まとめ	<p>評価の観点とは、1時間につき1～2項目にし、評価をするに当たり無理のない計画を立てるようにします。観察での評価については、同時に複数評価することは難しいので、1つの観点にするなど工夫が必要です。</p> <p>( )で示したように、重点項目以外は、評価しないということではなく、必要に応じて評価補助簿等に随時記録を残しておくことが大切です。また、単元の前半に設定する評価については、その結果をもって単元全体の総括的評価とするのではなく、必要に応じて単元終了時まで指導と評価を繰り返すことが大切です。</p>			
<p>【各指導内容間の関連】※指導計画の矢印参照</p> <p>2・3時間目に技術的な動きのポイント（知識）の学習機会を設け、練習時間を設定した上で4時間目に技能の評価を行います。さらに、5・6時間目には発見した課題について、動きのポイントやつまずきについて仲間の課題や出来映えを伝えるなど、知識や技能を活用して「思考力、判断力、表現力等」の学習や評価につなげることができるよう、各指導内容間の関連を図る工夫をすることが大切です。</p>				

※ 知…「知識」、技…「技能」、思…「思考・判断・表現」、態…「主体的に学習に取り組む態度」  
 ※ 「はばたく群馬の指導プランII」に基づく授業を参考に作成

【観点別学習状況の評価の進め方】

- ① 単元途中の観点別学習状況の評価は、生徒一人一人の学習状況を明確にし、生徒の学習改善につなげると同時に、教師は指導の成果や課題を明らかにするものです。  
 ⇒ 観点別学習状況の評価は、単元の終末にまとめて行うものとして捉えるのではなく、指導場面に対して評価の機会を検討し、設定することが重要です。
- ② 生徒の学習状況を的確に把握するために、日々の授業での一人一人の様子を『評価補助簿』等に記録し、特に「努力を要する」状況（C）の生徒に対して手立てを講じるのが重要になってきます。併せて、「十分満足できる」状況（A）の生徒の把握にも努め、個別の課題を与えるなどの指導を行うことも必要になります。
- ③ 生徒の学習評価の妥当性や信頼性を高めるために、指導を行っていく上で、改善が見られたり、「十分・おおむね満足できる」状況と認められなかったりした生徒には修正を加え、総括的評価の場面で最終確認を行う工夫をすることも必要です。

※ 評価補助簿の例

観点	知		技	思		態		
	①	②	①	①	②	①	②	③
時数 / 7	1/7	3/7	4/7	5/7	6/7	3/7	7/7	2/7
月 / 日								
生徒 I		A	A	A		A		A
生徒 II			※1 C-B 7/7	C				
生徒 III		A						※2 A-B 6/7

※ 記載のないところは「B」としている。

※ 1 「C-B 7/7」は、7時間目にCをBに修正したことを示している。

※ 2 「A-B 6/7」は、6時間目にAをBに修正したことを示している。

【観点別学習状況の評価の総括及び評価への総括の考え方】

学校内で共通の評価への考え方や総括の方法を確定しておく必要があります。こうした学校の方針等を踏まえて、保健体育科としての考え方、総括の方法についても十分な検討と共通理解を図っておくことが重要です。



# 【中学校技術・家庭 技術分野】

## 題材の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・指導事項アについて、その文末を分野の観点の趣旨に基づき、「～について(を)理解している。」として作成する。</p> <p>知識のみ</p>	<p>・指導事項イについて、その文末を分野の観点の趣旨及び学習過程における各項目の位置づけに基づき「～について①問題を見いだして課題を設定し、②様々な方法を構想して設計を具体化するとともに、③製作(制作・育成)の過程や結果の評価、改善及び④修正について考えている。」として作成する。</p> <p>◎丸数字は説明のために付けています。</p> <p>①課題の設定 ②解決策の構想 ③実践の評価・改善 ④評価・改善したことを表現</p>	<p>・指導事項ア、イに示された資質・能力を育成する学習活動を踏まえて、文末を「～に向けて、①課題の解決に主体的に取り組んだり、②振り返って改善したりして、③技術を工夫し創造しようとしている」として作成する。</p> <p>◎丸数字は説明のために付けています。</p> <p>①粘り強さ※ ②自らの学習の調整※ ③技術を工夫し創造する態度</p>
<p>・「知識・技能」については、原則、指導事項アについて評価する。</p>	<p>・「思考・判断・表現」については、指導事項イについて評価する。</p>	<p>※①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることにむけた粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面。</p>

### はばたく群馬の指導プランⅡ 題材のつくり方

**過程と基本的な学習活動**

1 題材の課題を把握する。  
◇題材に関わる技術と生活、社会、環境との関わりに気付く。  
【題材の課題】(全体)  
〈題材の目標を達成するための問い〉  
◇題材の学習の見通しをもつ。

2 基礎的な知識等を身に付ける。  
◇題材に関わる技術の見方・考え方に気付く。  
◇題材に関わる技術の科学的な原理・法則と仕組みを知る。

3 「製作・制作・育成の課題」を設定する。  
◇生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだす。  
◇個人で「製作・制作・育成の課題」を設定する。  
「製作・制作・育成の課題」(※個人)

4 設計・計画する。  
◇設計・計画や製作・制作・育成に必要な知識及び技能を習得する。  
◇製作・制作・育成の課題の解決策を構想し、図・計画に表す。  
◇試作・試行を通して、構想した解決策を具体化する。  
◇製作・制作・育成の作業計画を立てる。

5 解決に向けて製作・制作・育成する  
◇構想した解決策及び、作業計画に基づき、製作・制作・育成を行う。

6 成果を評価する。  
◇製作・制作・育成の課題の解決結果と解決の過程を、個人及び相互に評価する。

製作・制作・育成の振り返り

7 これからの技術の在り方を考える。  
◇つかむ過程で把握した題材の課題について、改めて確認する。  
◇社会問題や最新の技術について調べ、優れた点や問題点について、意見を交流する。  
◇これからの自分の生活や題材に関わる技術の在り方について考えさせ、発表させる。

題材のまとめ(全体)  
題材全体の振り返り(個人)

つかむ

追究する(D情報の技術は追究するを2回行う)

まとめ

### <例> 評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
【知技】 知識のみ	【思判表】 記 ①課題の設定	
<b>単位時間</b> 各単位時間で重点を置く評価の観点は、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。		
【知技】 記 知識及び技能	【思判表】 記 ②解決策の構想	【態度】 記 ①粘り強さ
※単位時間の中で、全ての観点について、評価するということではありません。		
<b>単位時間</b> <b>単位時間</b>		
	【思判表】 記 ③実践の評価・改善	【態度】 記 ②自らの学習の調整
<b>単位時間</b> <b>単位時間</b>		
	【思判表】 記 ④評価・改善したことを表現	【態度】 記 ③技術を工夫し創造する態度

はばプランⅡに示される「問題解決的な学習」の題材構想でない限り、評価規準に示される学習状況の評価をすることはできません。

**「指導に生かす評価」(学習状況を見取る)**

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、生徒の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

**「評定に用いる評価」(評価したことを記録に残す) = 記**

記録に残す評価については、毎回の授業で、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の全ての観点について行うのではなく、目標の実現状況が生徒の反応から顕著に見られる場面を精選します。

指導計画 技術・家庭科(技術分野) 第2学年 題材名「よりよいチャットプログラムを開発しよう」(全12時間計画)

題材の目標	AからDの各内容を、それぞれ一つの題材で指導する場合は、解説の各内容の最初に示された各内容のねらいを、授業時数や履修学年に応じたものとして設定することができる。	※
<p>情報の技術の見方・考え方を働かせ、生活や社会をよりよくするチャットプログラムを開発する実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている情報の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付け、情報の技術と生活や社会との関わりについて理解を深めるとともに、生活や社会の中から情報の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し解決する力、よりよい生活や社会の実現に向けて、適切かつ誠実に情報の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。</p>		
	知識・技能	思考・判断・表現
		主体的に学習に取り組む態度

題材の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>生活や社会で利用されている情報通信ネットワークの構成と、情報を利用するための基本的な仕組みを理解するとともに、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる技能を身に付けている。</p> <p>(2)アの文末を、「技能を身に付けている」と変更して作成する。</p>	<p>生活や社会の中から情報の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、使用するメディアを複合する方法とその効果的な利用方法等を構想して情報処理の手順を具体化するなどして、課題を解決する力を身に付けているとともに、制作の過程や結果の評価、改善及び修正について考える力を身に付けている。</p> <p>(2)イを、「課題を解決する力を身に付けているとともに」でつなぎ、文末を「考える力を身に付けている」と変更して作成する。</p>	<p>よりよい生活や社会の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、情報の技術を工夫し創造しようとしている。</p> <p>解説P.60「技術分野 資質・能力系統表」の「学びに向かう力、人間性等」を参照して作成する。</p> <p>「技術を評価、選択、管理・運用、改良、応用する力」の中から、発達段階に即した力を記述する。</p>

**【評価を行う場面】**  
 一つ一つの授業には目標(ねらい)があり、その目標(ねらい)に照らしておおむね満足できる状況となっていない生徒に対して適切に指導するためには、授業ごとに評価を行う必要がある。

**【評価を行う頻度】**  
 記録に残す「観点別学習状況」の評価については、毎回の授業で「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の全ての観点について行うのではなく、それぞれの実現状況が把握できる段階で評価を行う。

過程	時間	○ねらい めあて	☆振り返り(意識)	◇評価規準<方法>		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
つかむ	1	○生活や社会を支える情報の技術の疑似体験を通して、身近なところで使われているシステムの仕組みについて考えさせる。	☆POSシステムなどの身近なシステムは、たくさんの情報をやり取りしたり、管理したりできるようになっているのだな。 ☆情報をデジタル化することで各種の情報が一元的に活用することが可能となることことが分かった。	◇通信の機密を保つ情報セキュリティの仕組みや、利用場面に応じて情報を適正に活用することの大切さについて説明できる。 <ワークシート、ペーパーテスト>	◇進んで情報の技術と関わり、主体的に考え、理解しようとしている。 <ワークシート>	
	2					
	3	○情報セキュリティに関わる基礎的な情報の技術の仕組みやについて理解させる。	☆情報を安全にやり取りするために、個人認証やフィルタリング、暗号化、ウイルス対策などのセキュリティの仕組みが大切であることが分かった。			
4	○情報の技術の見方・考え方に気づき、情報の技術に込められた問題解決の工夫について考えることができる。	☆情報の技術は、利便性やセキュリティ、経済性などの視点から問題を解	◇情報通信ネットワークやそのシステムに込められた工			
5						

中学校・技術

		情報の技術に込められた問題解決の工夫はどのようなものがあるだろうか。	決しようとしているのだな。	夫を情報見方に気付くことができる。 〈調べ学習レポート〉	
<p>【題材の課題】生活や社会をよりよくするためにネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツはどう在るべきだろう。</p>					
追究する	6	○簡単なメッセージのやりとりができるプログラムを制作し、その応用案を構想することができる。	☆基本チャットプログラムでは、なりすまし対策など、セキュリティに課題があるので、パスワードを設定するなど、セキュリティが強化できるとよいな。	◇利便性や安全性等の観点から、基本チャットプログラムの応用案を構想し、課題を設定することができる。 〈構想シート〉	◇自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいプログラムとなるよう他者と協働して改善・修正しようとしている。 〈振り返りカード〉
	7 8 9	○利便性、セキュリティ、情報モラル等の視点から、よりよいチャットプログラムを制作することができる。	☆パスワード設定をすることでセキュリティ強化はできたが、利便性を高めるために何か工夫ができるとよいな。 ☆メッセージを受信したときに音で知らせてくれたり、メッセージの内容を履歴として残したりすることで、利便性を高めることができた。	◇アクティビティ図を基に、利便性や情報セキュリティにおいてよりよいプログラムを制作することができる。 〈構想シート、制作品観察〉	
	10 11	○利便性、セキュリティ、情報モラル等の視点からよりよいチャットプログラミングを完成させ、その特長や工夫などについてまとめることができる。	☆中高生で問題になっているネット依存対策として、タイマーを使ってチャットを行う時間を制限する機能を設けることができた。	◇使いやすさや情報セキュリティの視点から応用したチャットプログラムを完成させ、その特長や工夫についてまとめることができる。 〈提言レポート〉	
まとめる	12	○ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツの在り方について、利便性や情報セキュリティ等の視点から考え、まとめることができる。	☆個人認証などの情報セキュリティを確保しながらも、誰にとっても使いやすく便利なコンテンツが理想である。しかし、情報モラルは使い手によって感覚が違い、確立させることは難しいから、システムを工夫することで情報モラルへの意識を高められるようにできるとよいと思う。	◇ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツの理想の姿について、利便性や情報セキュリティ等の視点から具体的に考えまとめることができる。 〈提言レポート〉	◇よりよい生活や社会の実現に向けて、情報の技術を工夫し創造していこうとしている。 〈提言レポート、振り返りカード等を組み合わせて評価する〉

※「はばたく群馬の指導プランⅡ」に基づく授業を参考にして作成



# 【中学校技術・家庭 家庭分野】

## 題材の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・指導事項アについて、その文末を「～について理解している」として、評価規準を作成する。</p> <p>・指導事項アについて、その文末を「～について理解しているとともに、適切にできる」として、評価規準を作成する。</p> <p>・「知識・技能」については、原則、指導事項アについて評価する。</p> <p>・内容A(4)ア、B(7)ア、C(3)アの評価の観点とは、知識・技能ではなく、思考・判断・表現である。</p>	<p>指導事項イについて、その文末を教科の評価の観点及びその趣旨に基づき、「～について(①)問題を見いだして課題を設定し、(②)様々な解決方法を考え、(③)実践を評価・改善し、(④)考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている」として、評価規準を作成する。</p> <p>※丸数字は説明のために付けていますので、通常は、書きません。</p>	<p>「～について課題の解決に向けて主体的に取り組んだり(①)、振り返って改善したり(②)して、生活を工夫し、実践しようとしている(③)」として、評価規準を作成する。</p> <p>※丸数字は説明のために付けていますので、通常は、書きません。</p>	
知識のみ	<p>①課題の設定</p> <p>②解決方法の検討と計画</p> <p>③実践の評価・改善</p> <p>④考えたことを表現</p>	<p>① 粘り強さ</p> <p>② 自らの学習の調整</p> <p>③ 実践しようとする態度※</p>	

### はばたく群馬の指導プランⅡ 題材のつくり方

#### 過程と基本的な学習活動

**つかむ**

1 題材の課題を設定する。

◇生活の中から問題を見だし、整理する。  
◇見いだした問題を基に題材の課題を立てる。

**【題材の課題】**  
**〈題材の目標に到達するための大きな問い〉**

◇学習の計画を立てて、題材の学習の見通しをもつ。

**追究する**

2 題材の課題の解決に必要な知識及び技能を習得するための実践的・体験的な活動をする。

**単位時間**

**【めあて】**  
◇実践的・体験的な活動をする。  
◇気付いたことや考えたことを自分の言葉でまとめる。  
◇気づきを基に、一般化した言葉でまとめる。

**【振り返り】**

**単位時間**

**単位時間**

※習得させたい知識及び技能が多ければ、この時数が多くなります。  
※「生活についての課題と実践」の題材では、この過程は省略されます。

**追究する**

3 題材の課題の解決に向けた実践(実習)計画を作成する。

◇学習した知識や技能を活用して、課題の解決に向けた計画を作成する。  
◇検討したことを基に、計画を修正する。

**4 題材の課題の解決に向けた実践(実習)をする。**

◇3で立案した計画に従って、実践(実習)をする。  
◇実践(実習)を評価する。  
※3の学習で、家庭・地域での実践計画を作成した場合は、ここは省略されます。

**まとめる**

5 題材の課題の解決についてまとめたり、振り返ったりする。

◇「題材の課題」について、まとめる。

**【題材の課題】のまとめ**

◇4の実践(実習)や家庭・地域での実践を基に、改善策や生活に生かしたいことを考える。

◇**題材全体の振り返り**

【家庭・地域での実践】

#### <例> 評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
	【思判表】 記 ①課題の設定	
【知技】		【態度】 記 ①粘り強さ
		【態度】 記 ②自らの学習の調整
【知技】 記	【思判表】 記 ②解決方法の検討と計画	
	【思判表】 記 ③実践の評価・改善	
	【思判表】 記 ④考えたことを表現	【態度】 記 ③実践しようとする態度

はばプランⅡに示される「問題解決的な学習」の単元構想でない限り、評価規準に示される学習状況の評価をすることはできません。

「指導に生かす評価」(学習状況を見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、生徒の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

「評定に用いる評価」(評価したことを記録に残す) = 記

- ・目標の実現状況が生徒の反応から顕著に見られる場面を精選します。
- ・知識・技能は、継続的に指導(指導に生かす評価)を積み重ねた結果としての学習状況との捉え、学習過程の後半での記録が多くなるのが考えられます。
- ・思考・判断・表現は、教科の目標に思考力・判断力・表現力等の育成に係る学習過程が記載されているため、必ず4つのことについて評価をする。

指導計画 技術・家庭科(家庭分野) 第2学年 題材名「肉の調理を工夫しよう」(全8時間計画)

目標	<p>(1) 肉の調理を通して、(①)用途に応じた食品の選択、(②)肉などの食品や調理器具の安全と衛生に留意した管理、(③)肉の加熱の仕方について理解するとともに、それらに係る技能や基礎的な日常食の調理の技能を身に付ける。</p> <p>(2) 日常の1食分の肉の調理における食品の選択や調理の仕方、調理計画について、(①)問題を見いだして課題を設定し、(②)解決策を構想し、(③)実践を評価・改善し、(④)考察したことを論理的に表現する。</p> <p>(3) 日常の肉の調理について、(①)課題の解決に主体的に取り組んだり、(②)振り返って改善したりして、(③)生活を工夫し創造し、実践しようとする。</p>
評価規準	<p>(1) ・①日常生活と関連付け、用途に応じた肉の選択について理解し、適切にできる。          ・②肉などの食品や調理器具等の安全と衛生に留意した管理について理解し、適切にできる。          ・③肉の加熱の仕方について理解し、基礎的な日常食の調理が適切にできる。</p> <p>(2) 日常の1食分の肉の調理における食品の選択や調理の仕方、調理計画について、(①)問題を見いだして課題を設定し、(②)解決策を構想し、(③)実践を評価・改善し、(④)考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p> <p>(3) 家族と協働し、よりよい生活の実現に向けて、日常の1食分の肉の調理について、課題の解決に主体的に取り組んだり振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。</p>
<p>全ての丸数字は説明のために付けていますので、通常は、書きません。</p> <p><b>&lt;評価規準の表記について&gt;</b></p> <p><b>知識・技能：</b>・指導事項アについて、その文末を「～について理解している」「～について理解しているとともに、適切にできる」として、評価規準を作成する。          ・身に付けさせたい知識及び技能の評価規準は、評価しやすくするため、複数作成することもある。</p> <p><b>思考・判断・表現：</b>指導事項イについて、その文末を教科の評価の観点及びその趣旨に基づき、「～について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている」として、評価規準を作成する。</p> <p><b>主体的に学習に取り組む態度：</b>次の3つの側面で評価する。</p> <p>① 粘り強さ(知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面)</p> <p>② 自らの学習の調整(その中で自らの学習を調整しようとする側面)</p> <p>③ 実践しようとする態度</p>	

過程	時間	○ねらい めあて	☆振り返り(意識)	◇評価規準<方法・観点>		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
つかむ	1	○これまでの学習や調理経験を振り返って、肉の調理に関する学習課題を設定し、学習計画を立てる活動を通して、これからの学習への意欲をもたせる。	☆安全で衛生的に調理ができるように、肉の種類について知ったり、焼くときの火加減などについて学んだりしたい。 ☆課題を解決し、家族のためにおいしい肉の調理ができる自分を目指したい。		◇日常の1食分肉の調理、問題を見いだして課題を設定している。(思①) <ワークシート・観察>	
		肉を用いた調理について自分たちの学習課題を考え、学習計画を立てよう。				
		【題材の課題】ハンバーグの調理を通して、安全でおいしい肉の調理ができるようになるにはどうしたらよいか。				
追究する	1	○写真や実物を用いたり日常の食事を想起したりして、気付いたことをまとめる活動を通して、肉の種類、鮮度や品質の見分け方、安全な肉の調理について理解させる。	☆肉には色々な種類や部位があることがわかった。肉の特徴を知って使い方に適した調理をしたい。 ☆魚と同じで、肉も鮮度を見分けたり衛生的に取り扱ったりすることが大切だ。調理をする時は衛生に気を付けたい。	◇日常生活と関連付け、用途に応じた肉の選択について理解している。(知①)<ワークシート・発言>		
	1	○ハンバーグを用いた加熱実験を通して、加熱前後の肉の変化について理解させる。また、調理に必要な作業について考えさせる。	☆ハンバーグは加熱すると縮んで厚さが増した。肉の中心まで火を通すために、成形や火加減、加熱時間を考えて調理することが大切だ。	◇肉の加熱の仕方について理解している。(知③)<ワークシート・発言>		
		肉の種類や調理上の性質を知ろう。				
		【調理実験】加熱による肉の変化について知ろう。				
		指導に生かす評価				

**中学校・家庭**

	1	<p>○学習した知識や技能を活用し、ハンバーグ作りの実習計画を立てさせる。実習グループごとに成形、火加減、加熱時間、盛り付けなどについて検討させ、計画の修正ができるようにする。</p>	<p>☆中までしっかりと火を通すために、成形や火加減、加熱時間を工夫しよう。 ☆衛生的な調理を心がけたい。 ☆彩りよい付け合わせを考えて、見た目にもおいしそうなハンバーグにしたい。</p>	<p>◇肉や調理器具等の安全と衛生に留意した管理について理解している。(知②) &lt;ワークシート、観察&gt;</p>	<p>◇ハンバーグ調理は、食品の調理の仕方、調理計画について、考え、工夫している。(思②) &lt;ワークシート、観察&gt;</p>	<p>◇日常の1食分の肉の調理について、課題解決に主体的に取り組もうとしている。(主①) &lt;主②&gt;</p>
	ハンバーグ実習の調理計画を立てよう。		<p>・重点を置く評価方法を先に書く。</p>			
	2	<p>○自分たちで立てた調理計画に従った実習を行う活動を通して、安全と衛生に留意しながら、ハンバーグを作ることができるようにする。</p>	<p>☆調理実験で学んだことを生かし、肉を焦がさず中まで火を通すことができた。 ☆安全と衛生に留意しながら調理ができた。 ☆調理計画通り、見た目にもおいしそうなハンバーグができた。</p>	<p>◇肉などの食品や調理器具等の安全と衛生に留意した管理について理解し、適切にできる。(知②) &lt;観察&gt;</p>	<p>◇肉の加熱の仕方について理解し、基礎的な日常食の調理が適切にできる。(知③) &lt;観察&gt;</p>	<p>◇日常の1食分の肉の調理について、課題解決に向け改善しようとしている。(思③) &lt;振り返りカード、観察&gt;</p>
【調理実習】 味も見た目もよいハンバーグを作ろう。		<p>記録に残す評価</p>				
	1	<p>○これまでの学習で得た知識や技能を活用し、「1食分の献立」を考えて調理計画を立てる活動を通して、自分や家族の食生活の課題を解決するための工夫をさせる</p>	<p>☆学習したことを生かし、家庭実践の調理計画を工夫して立てることができた。 ☆家族が健康になるような献立を考えられた。 ☆家族に喜んでもらえるような肉料理を作りたい。</p>		<p>◇日常の1食分の肉の調理における食品の選択や調理の仕方、調理計画について、考え工夫している。(思②) &lt;ワークシート&gt;</p>	
	学習したことを活用して、「家族が喜ぶ肉料理の献立」の実践計画を立てよう。		家庭での実践			
まとめ	1	<p>○家庭での実践を互いに評価し合う活動を通して、自分の実践を改善したり新たな課題の発見をしたりできるようにする。 ○題材全体の学習を振り返る活動を通して、学習したことを生かして家庭で実践できることを考えさせる。</p>	<p>☆友達の実践を聞いて、自分にもできそうなことがあった。また作ってみよう。 ☆肉と旬の野菜を上手に組み合わせた献立で、家族をもっと健康にした。</p>		<p>◇日常の1食分の肉の調理における食品の選択や調理の仕方、調理計画について実践を評価・改善している。 ◇日常の1食分の肉の調理についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。(思④) &lt;発表、ワークシート&gt;</p>	<p>◇よりよい生活の実現に向けて、日常の1食分の肉の調理について、工夫し、創造し、実践しようとしている。(主③) &lt;振り返りカード&gt;</p>
家族に喜んでもらうために、自分ができていることを考えよう。						

・ゴシック体は、評定に用いる評価（記録に残す評価）

※「はばたく群馬の指導プランⅡ」に基づく授業を参考にして作成



# 【中学校外国語科】

## 単元の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> ○○について理解している。 <技能> △△について○○を用いて、□□を〜する技能を身に付けている。 【知技】 ○○の理解 ○○の正しい活用	☆☆のために、△△について、簡単な語句や文を用いて□□を〜している。 【思判表】 課題解決に向けた言語活動	☆☆のために、△△について、簡単な語句や文を用いて□□を〜しようとしている。 【態度】 他者へ配慮しながら、課題解決しようとする態度
・「話すこと」について、音声の特徴を捉えて話していることについては、特定の単元等で扱うのではなく、「話すこと」の指導全体を通して適宜評価する。	・日常的な話題や社会的な話題について、目的、場面、状況のある言語活動において評価する。	・言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的にとらえている状況については、特定の領域・単元ではなく、年間を通じて評価する。

※○○は言語材料、△△は事柄・話題、□□は内容、☆☆は目的

「思考・判断・表現」は目的、場面、状況のある言語活動の中で評価されるため、はばプラIIで示す単元の課題を設定した問題解決的な授業が不可欠です。

### はばたく群馬の指導プランII 単元のつくり方

#### 過程と基本的な学習活動

#### 1 単元の課題を把握する。

◇教材や教科書の題材に触れる。

##### 課題提示型

- ◇単元の課題に出会う。(教師が提示する。)
- ◇活動の「目的・場面・状況」を確認する。

##### 課題発見型

- ◇教師が提示する「場面・状況」を捉える。
- ◇単元の課題を発見する。  
→単元の課題を解決する「目的」をもつ。

#### 【単元の課題】

〈必要感をもって思いや考えを伝え合う活動〉

- ◇「試しの活動」として単元の課題に取り組む。  
※外国語活動では、既習事項が少ないため、行わない場合もある。
- ※中学校では「CAN-DOリスト」との整合性を図る。

#### 2 単元の課題の解決に向け、単位時間ごとに追究する。

##### 単位時間

【めあてをつかむ】

- A** 「単元の課題の解決」に向けて、新出言語材料に触れる。
- B** 新出言語材料を活用する言語活動に取り組む。
- C** 教材にあるまとめの活動や、教科書の本文理解など、本文に関する言語活動に取り組む。

【振り返り】

※言語面・内容面

単位時間

単位時間

単位時間

追究する

まとめる

#### 3 単元の課題を解決する。

- ◇「追究する」過程で習得した知識及び技能や整理した情報、考えなどを活用し、単元の課題に示された伝え合う活動に取り組む。
- ◇単元全体の学習の振り返りをする。

単元全体の振り返り

### <例> 評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
<b>単位時間</b> ○ <b>C</b> 教科書の活用については、「ねらい」によっては評価することもあります。		
A	B 【知技】	C 【知技】 【思判表】 【態度】
	単位時間	
	単位時間	
	単位時間	
【知技】	【思判表】	【態度】

#### 「指導に生かす評価」 (学習状況を継続的に見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、児童の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。  
《形成的評価》

「指導と評価の一体化」の充実

#### 「評定に用いる評価」 (評価したことを記録に残す)

= 記

- ・単元末における課題解決にせまる言語活動で、当該単元で学習する言語材料を使用しないこともあるため、言語材料を指定しない場合は、「追究する過程」で評価する。
- ・外国語科では指導した結果として、できるようになったことを評価するため、単元の後半に評価することが多くなります。



中学校・外国語

	<p>5 ○教科書本文の内容理解の学習を通して、関係代名詞の省略による後置修飾の使用場面や働きを確認できるようにする。</p> <p>教科書 P72 の本文の内容を理解し、場面を意識して音読できるようになろう。</p>	<p>☆今日も教科書の内容を読んで、後ろから人やものを詳しく説明する表現が出てきたな。凄いエピソードが出てきたな。</p>		
	<p>6 ○関係代名詞の目的格の省略の後置修飾を含む表現を繰り返し用いて表現し、使い方を理解できるようにする。</p> <p>前時の授業で出てきた新しい表現を繰り返し用いて表現し、使い方を理解できるようにしよう。</p>	<p>☆前の単元で学んだこととほとんど同じだけど、今日確認した言い方も人物を詳しく説明するときに使えそうだな。</p>	や	<p>&lt;知識&gt; 後置修飾の文構造について理解している。 &lt;技能&gt; 自分のあこがれの人物について、その人の偉業や言葉などを整理し、演説に関わる新出語彙や後置修飾の文を使って伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。</p>
	<p>7 ○キング牧師について教科書本文を読んで内容を理解するとともに、 8 ・どのようなことを書けば充実した人物紹介につながるか考えられるようにする。</p> <p>キング牧師について書かれた紹介文を読んで内容を理解し、自分が紹介するときに有効な情報を考えよう。</p>	<p>紹介記事を読んでみて、英語で偉人を紹介するときは、偉業や歴史、自分の意見や考えを伝えるといいのだな。</p>		
まとめる	<p>9 ○後置修飾を適切に用いながら自分のあこがれの人物についての紹介記事を書けるようにする。</p> <p>助言を生かして表現や内容、構成を工夫しながら自分のあこがれの人物の紹介文を書いてみよう。</p>	<p>☆教科書のキング牧師の紹介記事や、授業で勉強した人物を詳しく説明した言い方を使って、紹介文を書けばいいのだな。</p>	書	<p>&lt;知識&gt; 後置修飾の文構造について理解している。 &lt;技能&gt; 自分のあこがれの人物について、その人の偉業や言葉などを整理し、演説に関わる新出語彙や後置修飾の文を使って自分の思いや考えを書く技能を身に付けている。</p>
	<p>10 ○友達と即興的に自分のあこがれの人物について書いた英文を読み合う活動を通して、内容を深められるようにする。</p> <p>聞いている人が興味を持てるように、注目している国について、調べたことをわかりやすく伝え合おう。</p>	<p>☆友達の紹介文を読むと、理由の言い方や、具体的な情報、自分の意見が入っている方が読んでいて興味をもてるな。</p>	N や や	<p>&lt;思判表&gt; 自分のあこがれの人物を知ってもらうために、その人の偉業や言葉などを整理し、簡単な語句や文を使って伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。</p>
	<p>11 ○友達の助言を生かしてよりよい表現や内容、構成を工夫し、自分のあこがれの人物の紹介記事を書けるようにする。</p> <p>助言を生かして表現や内容、構成を工夫しながら自分のあこがれの人物の紹介文を書いてみよう。</p>	<p>☆「昨日もらった助言や、自分が読んで考えたことを生かして、あこがれの人物の紹介記事をより詳しく書けたな。」</p>	書 書	<p>&lt;思判表&gt; 自分のあこがれの人物を知ってもらうために、その人の偉業や言葉などを整理し、簡単な語句や文を使って、自分の思いや考えを書いている。</p>

※「はばたく群馬の指導プランⅡ」に基づく授業を参考にして作成



# 【小・中学校 特別の教科 道徳】

## 道徳科の評価における基本的な考え方

### 学習指導要領(特別の教科 道徳)より

児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

- 数値による評価ではなく、**記述式**とすること
- 個々の内容項目ごとではなく、**大きくりなまとまり**を踏まえた評価とすること
- 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます**個人内評価**として行うこと
- 学習活動において児童生徒がより**多面的・多角的な見方へと発展しているか**、**道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか**といった点を重視すること
- 発達障害等のある児童生徒が抱える学習上の困難さの状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮を行うこと
- 調査書(内申書)に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにすること

### はばたく群馬の指導プランⅡ 単位時間の基本的な流れ

導入	<p><b>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時で扱う道徳的価値に関わる資料(アンケート結果、視聴覚教材等)を提示したり、話題(経験も含む)にしたりして気付きを共有させる。</li> <li>児童生徒の問題意識を基に、学習のめあてを設定する。</li> </ul> <p><b>【めあて】</b></p>
展開	<p><b>2 教科書の教材文の範読を聞く。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師は、実態に応じて場面絵を提示し読み進める。</li> </ul> <p><b>3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人間関係を確認したり、状況を把握したりするための<b>基本発問</b>をする。</li> <li>多面的・多角的に考えることのできる<b>中心発問</b>をする。</li> <li>中心発問に対する児童生徒の考えに対し<b>補助発問</b>をする。</li> </ul> <p>※問題場面を役割演技で再現するなどの体験的な活動を設定することも考えられる。</p> <p><b>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習のめあてに戻り、改めて気付いたことや考えたことを問いかける。</li> <li>児童生徒に考えたことを発表するよう促す。</li> <li>発表された様々な考えを受容する。</li> </ul>
開	<p><b>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習を振り返り、よりよい自己の考えや生き方への思いや願いを深めさせる。</li> </ul> <p><b>【振り返り】</b></p>

### 評価の視点<例>

#### 評価の視点

授業の「ねらい」は道徳性を養うことですが、評価するのは**学習状況**です。そこで、明確な指導観のもと、学習活動を構想し、児童生徒の学習状況を評価の視点とします。

#### 学習状況の例

##### 多面的・多角的な見方へと発展しているか

- 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え、考えようとしている。
- 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。
- 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。 など

##### 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

- 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。
- 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している。
- 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている。
- 道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。 など

### 評価のための方法<例>

**学習状況**を以下のような方法で見取ります。

#### 「授業ごとの見取り」(記録に残し、蓄積する)

- 児童生徒の学習状況を見取り、記録しておきます。

ノートやワークシートの記述

授業記録(発言・態度)エピソード記録

作文やレポート等

スピーチやプレゼンテーション等

聞き取り、インタビュー

児童生徒が行う自己評価や相互評価

※学校や学年で評価の方法や評価の視点について共通理解を図ることが大切です。

#### 「大きくりなまとまりを踏まえた評価」

- 年間や学期など一定の時間的なまとまりの中で評価します。
- 児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を捉え、要録や通知表に記述します。

## 小・中学校「特別の教科 道徳」に係る評価について

### 1 児童生徒の評価

#### ○新学習指導要領（特別の教科 道徳）

児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。

ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

#### <基本的な考え方>

○数値による評価ではなく、記述式とすること

○個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること

○他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこと

○学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること

○調査書（いわゆる内申書）に記載せず、中学校・高等学校の入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする必要

<授業では、児童生徒の何を見とるのか。>

\* 道徳科のねらいは、道徳性を養うことだが、道徳性を評価することは困難である。

道徳科では、学習状況や道徳性に係る成長の様子を評価する。

つまり、教師はねらいを設定して授業に臨むが、そのねらいをゴールとして児童生徒の評価は行わない。従って、「授業のねらい」と「評価の視点」にずれが生じる。

#### <道徳科の授業における児童生徒の評価の視点>

道徳的価値の理解に基づく

・児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか。

・道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

自己の（人間としての）生き方について考えを深める

\* これらの点を重視し、道徳科の学習活動に着目して評価する。

道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習。

\* 授業の見取りを記録に残し、大きくくりなまとまりを踏まえて記述する。

### 2 授業に対する評価

#### <授業に対する評価> 道徳科の学習指導課程や指導方法に関する評価の観点の例

ア 学習指導過程は、道徳科の特質を生かし、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自己の（人間としての）生き方について考えを深められるよう適切に構成されていたか。また、指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか。

イ 発問は、児童（生徒）が（広い視野から）多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確になされていたか。

ウ 児童（生徒）の発言を傾聴して受け止め、発問に対する児童の発言などの反応を、適切に指導に生かしていたか。

エ 自分自身との関わりで、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考えさせるための、教材や教具の活用は適切であったか。

オ ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるための指導方法は、児童（生徒）の実態や発達の段階にふさわしいものであったか。

カ 特に配慮を要する児童（生徒）に適切に対応していたか。

## 【総合的な学習の時間】

### 単元の指導計画における観点別評価の位置付け 〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>【知技①(概念的知識)】</b> ○○は、▲▲し、□□することで★★となっていくことを理解している。	<b>【思判表①(課題の設定)】</b> ※単元の課題・個別の課題・新たな課題 ○○について、課題を設定し、解決に向けて自分にできることを考えている。	<b>【態度①(自分自身に関すること・主体性)】</b> 活動を通して、自分と○○とのかかわりを見直そうとしている。
<b>【知技②(概念的知識)】</b> ○○の解決に向けて学んだことは、△△な面で自分の生活と深く関わっていることを理解している。	<b>【思判表②(情報の収集)】</b> ○○の解決に必要な情報を手段を選択して、収集している。	<b>【態度②(他者とのかかわり・協働性)】</b> グループで協力したり、お世話になった方からの教えを生かしたりしながら、○○の解決に向けて協働して取り組もうとしている。
<b>【知技③(技能)】</b> ○○の解決に向けて調査をしたり体験をしたりして収集した情報について、図や文章等でまとめる方法が身に付いている。	<b>【思判表③(整理・分析)】</b> 収集した情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり、関連付けたりしながら○○の解決に向けて考えている。	<b>【態度③(社会とのかかわり・粘り強い態度)】</b> 課題解決に向けた活動の状況を振り返り、諦めずに○○の解決に向けて取り組もうとしている。
	<b>【思判表④(まとめ・表現)】</b> 伝える相手や目的に応じて、調べた○○や自分が考えた◇◇をまとめ、適切な方法で表現している。	

#### はばたく群馬の指導プランⅡ 単元のつくり方

##### 過程と基本的な学習活動

つかむ	<b>1 探究課題と出会い、単元の課題を把握する。</b> <b>①探究課題と出会う。</b> ◇共通体験活動を行う。 ◇専門家の話を聞く。 など <b>②単元の課題を把握する。</b> ◇気付きや疑問を出し合う。 ◇理想と現実を比べる。 など <b>③追究の見通しをもつ。</b> ◇どのようなことに取り組んでいくか、解決に向けた予想や仮説を立てる。 など
追究する①②	<b>2 単元の課題に基づき、個人・グループ等での課題を設定し、追究する。</b> <b>①課題の設定</b> ◇追究の見通しを基に、自らが取り組む課題（個別課題）を設定する。 ◇何をどのように追究するか、具体的な見通しをもつ。 <b>②情報の収集</b> ◇設定した課題の解決に向けて、見通しを基に必要な情報を収集する。 <b>③整理・分析</b> ◇収集した情報や考えを整理・分析する。 <b>④まとめ・表現</b> ◇設定した課題に対する取組をまとめたり、実践したりし、新たな課題につなげる。 <b>3 新たな課題を見だし、継続して追究する。</b> <b>①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現</b>
まとめる	<b>4 単元全体の学習を振り返る。</b> ◇単元全体を振り返り、自分の変化や成長を見つめ直す

#### <例> 評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
	<b>【思判表①】</b> 単元の課題の設定	<b>【態度①】</b> 自分自身・主体性  <b>【態度③】</b> 社会とのかかわり・粘り強い態度
<b>【知技①】</b> 概念的知識  <b>【知技②】</b> 概念的知識  <b>【知技③】</b> 技能	<b>【思判表①】</b> 個別の課題の設定  <b>【思判表②】</b> 情報の収集  <b>【思判表③】</b> 整理・分析  <b>【思判表④】</b> まとめ・表現  <b>【思判表①】</b> 新たな課題の設定	<b>【態度①】</b> 自分自身・主体性  <b>【態度②】</b> 他者とのかかわり・協働性  <b>【態度③】</b> 社会とのかかわり・粘り強い態度
	<b>【思判表④】</b> まとめ・表現	<b>【態度①】</b> 自分自身・主体性

記録に残す評価（通知表、指導要録）については、従来どおり、実施した「学習活動」「評価の観点」「評価」の3つの欄で構成し、その児童生徒のよさや成長の様子など、顕著な事項を文章で記述する。

## 総合的な学習の時間（小・中）

### 単元の評価規準の作成について

#### ◎学習評価の進め方

評価の進め方	留意点
1 単元の目標を作成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校において定める総合的な学習の時間の内容（探究課題及び育成を目指す具体的な資質・能力）をよりどころにする。</li> <li>○ 中核となる学習活動をもとに単元の目標を作成する。</li> <li>○ 単元の目標を踏まえ、「単元の評価規準」を作成する。</li> </ul>
2 単元の評価規準を作成する	
3 「指導と評価の計画」を作成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1, 2を踏まえ、具体的な学習活動に沿って、評価場面や評価法法等を計画する。</li> </ul>
授業を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3を踏まえて評価を行い、児童生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。</li> </ul>
4 総括する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習の状況や成果などについて、児童のよい点、学習に対する意欲や態度、進歩の状況などを踏まえて、評価結果を総合する。</li> </ul>

- ・ 単 元 : 課題の解決や探究的な学習活動が発展的に繰り返される一連の学習活動のまとまり
- ・ 単元の目標 : どのような学習を通して、児童生徒にどのような資質・能力を育成することを目指すのかを明確に示したもの

#### ○単元の評価規準の作成

手順① 単元の目標を作成する。

※単元の目標の示し方の例（一文の中に学習活動と3つの資質・能力を入れる）

～（学習活動）することを通して、…（知識及び技能）に気付き、…（思考力、判断力、表現力等）について考えるとともに、…（学びに向かう力、人間性等）を自らの生活や行動に生かそうとする。

手順② 単元の目標に示された資質・能力を踏まえ、目指すべき学習状況としての児童生徒の姿を想定する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①概念としての知識 ②" ③技能	①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現	①自分自身に関すること ②他者に関すること ③社会に関すること

手順③ 文末を以下のように変えることで評価規準とする。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
～について理解している。 ～を身に付けている。	～している。	～しようとしている。

※具体的な学習活動に沿って、評価場面や評価方法等を計画する。

#### ★指導要録の記述について

これまでどおり、実施した「学習活動」「評価の観点」「評価」の3つの欄で構成し、その児童（生徒）のよさや成長の様子など顕著な事項を文章で記述する。

◆単元の評価規準作成と指導と評価の計画の例

- ・ 探究課題 「身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々」
- ・ 単元名 「地域の絆を再生しよう」（小学校 第6学年、全50時間）
- ・ 単元の目標

少子高齢化や核家族化を背景に、さみしさを抱えながらくらす高齢者の孤独の解消に向けて活動することを通して、高齢者の暮らしを支える取組や人々の思いに気付き、高齢者の暮らしを支える「地域の茶の間（地域の人々が集い交流できる場）」の在り方について考えるとともに、学んだことを自らの生活や行動に生かそうとする。

・ 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 高齢者の暮らしを支える取組や人々の思いを基に、「地域の茶の間」は、地域の人と思いを共有し、協働でつくることで持続可能なものとなること <u>を理解している</u>。 (知識①)</p> <p>② 高齢者とその暮らしについて学んだことが自分の生活と深く関わっていること <u>を理解している</u>。 (知識②)</p> <p>③ 「地域の茶の間」を開催したり、モデルケースを調査・体験したりして収集した情報と情報との関係について、図や文章でまとめる方法 <u>を身に付けている</u>。 (技能)</p>	<p>① 地域や高齢者とその暮らしについて、理想との隔たりから <u>課題をつくっている</u>。 (課題の設定)</p> <p>② 高齢者の孤独の解消のために必要な情報を、手段を選択して <u>収集している</u>。 (情報の収集)</p> <p>③ 持続可能な「地域の茶の間」をつくるために必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決 <u>に向けて考えている</u>。 (整理・分析)</p> <p>④ 伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法 <u>で表現している</u>。 (まとめ・表現)</p>	<p>① 活動を通して、自分と身の回りの高齢者との関わりを <u>見直そうとしている</u>。 (自分自身に関すること)</p> <p>② 「地域の茶の間」の体験を通して得た知識や自分と違う友達の考えを生かしながら、<u>協働して課題解決に取り組もうとしている</u>。 (他者に関すること)</p> <p>③ 課題解決の状況を振り返り、あきらめずに高齢者の孤独の <u>解消に向けて取り組もうとしている</u>。 (社会に関すること)</p>

**総合的な学習の時間（小・中）**

・指導と評価の計画（抜粋）

過程（時間）	ねらい・学習活動	知	思	態	備考
持続可能な「地域の茶の間」のモデルケースを調査・体験しよう （10時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域の茶の間」の活動を振り返り、活動の意味や価値を考えることで、課題を再設定する。</li> <li>・「地域の茶の間」を持続可能な形で運営しているモデルケースの調査・体験活動を行い、必要な情報を収集する。</li> <li>・モデルケースの特徴を整理し、その背景を分析することで、高齢者のくらしを支える人の工夫や思いに気付く。</li> <li>・自分たちが開催した「地域の茶の間」とモデルケースの調査・体験活動を基に、持続可能な「地域の茶の間」の在り方について考え、概念的知識を形成する。</li> </ul>	①	① ②	②	思：発言内容 作文シート  知：作文シート 思：行動観察 作文シート  技：ワークシート  知：発言内容 作文シート 思：発言内容 態：発言内容 行動観察
高齢者だけではなく地域の人に必要とされる「地域の茶の間」をつくろう （15時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概念的知識を基に、課題を再設定する。</li> <li>・必要な情報を調べながら、「地域の茶の間」の計画（場所や日時、プログラム等）を立てる。</li> <li>・学習課題に照らし、「地域の茶の間」の計画を修正・改善する。</li> <li>・計画を修正・改善しながら複数回の「地域の茶の間」を開催する。</li> </ul>		②	② ④	思：発言内容 行動観察  態：発言内容 行動観察  思：行動観察

# 【学級活動 内容のまとめ(2)(3) 中学校の例】

## 学習過程の指導計画における観点別評価の位置付け 〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〇〇すること(自己の生活上の課題、自己実現に必要なことについて話し合ったり実践したりすること)の意義を理解している。</p> <p>□□について理解し、△△を身に付けている。</p> <p>話し合ったり実践活動における意義の理解</p> <p>基本的な知識・技能の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己の生活上の課題の解決に関する知識・技能(2)</li> <li>自己実現を図るために必要なこと、行動の仕方に関する知識・技能(3)</li> </ul>	<p>●●するために、問題を確認し、■■しながら意志決定を図り、▲▲して(～し合ったり)実践している。</p> <p>※「表現」は、言語による表現にとどまらず、行動も含んで捉える</p> <p>問題の確認</p> <p>意志決定</p> <p>実践の様子</p>	<p>◎◎するために、見通しをもったり振り返ったりしながら、◇◇しようとしている。</p> <p>※自ら活動の調整を行い改善しようとする態度を重視することから、「見通しをもったり振り返ったりしながら」という表現を用いる。</p> <p>見通し・振り返り</p> <p>身に付けた能力を生かして、よりよく生きていこうとする態度</p>

### はばたく群馬の指導プランⅡ 学習過程のつくり方

#### 過程と基本的な学習活動

事前の活動	<p>1 問題を発見・確認する。</p> <p>◇題材を設定する。(教師)</p> <p>◇問題を確認する。</p> <p>◇共通の課題を設定する。</p> <p><b>【共通の課題】</b></p> <p>◇活動計画を作成する。</p> <p>◇問題意識を高める。</p>
本時の活動	<p>2 解決方法等を話し合う。</p> <p>◇課題を把握する。</p> <p>◇原因を追求する。</p> <p>◇解決方法を見付ける。</p> <p>3 解決方法を決定する。</p> <p>◇個人の意思決定をする。</p>
事後の活動	<p>4 決めたことを実践する。</p> <p>◇意思決定したことを実践する。</p> <p>5 振り返る。</p> <p>◇実践を定期的に振り返る。</p> <p><b>一連の活動の振り返り</b></p>

### 〈例〉評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
	<p>問題の確認</p> <p>【見取りのポイント】 問題に対する自分の現状を考え、問題意識をもっているか。等 〈ノート等記述〉</p>	<p>見通し・振り返り</p> <p>【評価の参考】 事前の活動におけるアンケート、実践の様子、実践後の振り返り等 〈事前アンケート・ノート等記述・観察〉</p>
<p>話し合ったり実践活動における意義の理解</p> <p>【見取りのポイント】 自己の生活上の課題を解決したり、よりよい自分へ向けて努力したりするために話し合ったり、実践したりすることの意義を理解しているか。等 〈ノート等記述〉</p>	<p>意思決定</p> <p>【見取りのポイント】 話し合いで出された考えを踏まえ、自分の課題にあった具体的な実践方法やめあてを決めているか。等 〈ノート等記述・発言・観察〉</p>	
<p>基本的な知識・技能の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己の生活上の課題の解決に関する知識・技能(2)</li> <li>自己実現を図るために必要なこと、行動の仕方に関する知識・技能(3)</li> </ul> <p>【見取りのポイント】 生活や学習に必要な知識・技能や自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けているか。等 〈ノート等記述・観察〉</p>	<p>実践の様子</p> <p>【見取りのポイント】 意思決定したことを実践しているか。等 〈学習カード等の自己評価・観察〉</p>	<p>見通し・振り返り</p> <p>身に付けた能力を生かして、よりよく生きていこうとする態度</p> <p>【見取りのポイント】 意思決定したことを、見通しをもって実践したり、粘り強く活動したりしているか。等 〈学習カード等の自己評価・観察〉</p>

#### 評価の工夫について

- 学級活動(2)(3)においては、「現在の生活上の課題」「現在及び将来を見通した生活や学習の課題」という違いはありますが、基本的な学習過程が同じであることを踏まえ、事前・本時・事後の一連の学習過程の中で評価できるようにしましょう。
- 実践の振り返りの際には、学習カードに担任や家庭からのコメント欄を設けるなどして、実践の過程における生徒の努力や意欲などを賞賛するなど、一人一人のよさや可能性を認め、伸ばす指導を心がけましょう。

◎指導要録における特別活動の記録(中学校の例)

各学校で定めた評価の観点の指導要録に記入した上で、各活動・学校行事ごとに、十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入する。指導と評価に当たっては、各学校で「十分に満足できる活動の状況」とは「生徒のどのような姿」を指すのかを検討し、共通理解を図ってその取組を進めることが求められる。

特別活動の記録					
内容	観点	学年	1	2	3
学級活動	よりよい生活を築くための知識・技能		○	○	
生徒会活動	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度			○	
学校行事	余白		○	○	

全学年で共通した、各学校で定めた特別活動の評価の観点を記入する。

評価の観点の変更がある場合を想定して、余白をとっておく。

事前の見通しから事後の振り返りまでの生徒の様子から、主として学級担任が積極的によさや可能性を見とるようにする。

例えば、指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に「合唱コンクールにおける学級の目標の実現に向けて努力するとともに、学級や仲間のために自分ができることを考え、行動していた。」と記入するなど、○を付けた根拠を示すようにする。

<評価の工夫について>

- ・学級活動では、児童の振り返りカードや活動の様子を記録する補助簿の活用など、記録を残して評価に生かす工夫を。
- ・その他の活動や学校行事では、担任以外の教師が指導することも多いので、子どもたちのよさや可能性を多面的・総合的に評価できるよう、評価体制を確立して密に情報交換を行うなどの工夫を。

特別活動の評価の観点について

「特別活動の目標」と改善等通知(H31.3.29)を確認し、自校の実態に即して評価の観点を作成する。その際、特別活動の特質や学校として重点化した内容を踏まえて、例えば「主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度」のように**具体的な観点**を設定することが考えられる。

【特別活動における「評価の観点」及びその趣旨をもとにした例】

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。自己の生活の充実・向上や自己実現に必要な情報及び方法を理解している。よりよい生活を構築するための話し合い活動の進め方、合意形成の回り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法を話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。主体的に人間としての生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

【特別活動における資質・能力の視点(「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」)をもとに重点化を図った例】

集団や社会に参画するための知識・技能	協働してよりよい生活や人間関係を築くための思考・判断・表現	主体的に目標を立てて共によりよく生きようとする態度
多様な他者と協働し、集団の中で役割を果たすことの意義や、学級・学校生活を改善・向上するために必要となることを理解している。	多様な他者と協働して、よりよい生活や社会、人間関係を構築するために、集団や個人の課題について話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりして実践している。	学級や学校、社会の構成者としてのこれまでの自分を振り返り、現在及び将来の自己実現に向けて目標をもって努力し、協働してよりよく生きていこうとしている。

【社会参画に重点化を図った例】

多様な他者と協働するために必要な知識・技能	集団や社会をよりよくするための思考・判断・表現	主体的に集団活動や生活をよりよくしようとする態度
学級や学校、社会生活の充実のために主体的に参画することの意義や、そのための話し合いの手順を理解している。話し合い活動における合意形成の回り方などの技能を身に付けている。	学級や学校、社会生活の充実・向上のために課題を考え、話し合い、集団としての解決方法を合意形成したり、自分の実践目標を意思決定したりしている。	学級や学校、社会生活の改善・充実を図るために、相互のよさを生かし、協働して実践しようとしている。現在及び将来の自己実現に向けて、これまでの自分を振り返り、これからの集団活動や生活に生かそうとしている。

- 例示を参考に各校の評価の観点を作成し、指導要録に記入する。
- 作成した評価の観点のもと、各学校において育成を目指す資質・能力を踏まえて「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。その際、学級活動においては低・中・高学年ごとに発達段階を考慮して評価規準を作成する。